明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
明治四十五年六月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

廓清

第二巻 第六號

呈

社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

張

△廓清會趣意書……會説

△社會の基礎……廓清會々長 島田三郎

△女子問題……法學博士 鵜澤總明

△公娼問題解決の要點……成女高等女學校長 宮田修

雑誌之雑誌

◎護教◎内ヶ崎作三郎◎小山鼎浦◎樋口秀雄◎◎幸田露伴◎山路愛山◎床次竹二郎◎大町桂月◎江原素六◎鳩山春子◎吉丸一昌◎高田畊安◎福來友吉◎讀賣新聞◎基督教世界◎加藤照麿◎宮川壽美子◎石原技師◎東京毎日新聞◎やまと新聞◎婦人の友

△滿州の婦人救濟……救世軍大佐 山室軍平

△吉原の現狀……嘯月生

△同志の聲……記者

△小説『闇』……雪子

東京 廓清會本部 發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會員諸君に望む

吾人は、吾徒の主義主張を傳へ、輿論の勢力を作らんが爲め、毎號本誌を普く天下に頒布せむ事を欲す。然れどもそは元より本會財政の許すところにあらず、これ常に吾人の遺憾とする所なり。於茲吾人は、幸に本會の趣旨を賛し、吾人と共に此一大人道問題を解決の爲に貢献せられむとする諸君に對し毎號諸君の讀み了られたるものを以て知人より知人へ轉送回覧せしめられむ事を願はむとす。蓋し如斯にして一冊の本誌を數冊と同一の效力を生ぜしめ幾十萬人の前に吾徒の主張を陳述するの效果あらしめむ事は、豈簡單にして而も有效なる運動法の一たるなからむや。冀くば我徒の微衷を諒とし、協力一致、輿論喚起勢力振作の一助として諸君の實行を望むや切也。

東京市神田區美土代町三丁目三番地

廓清會本部

廓清會綱要

（一）**本會の目的**　は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓清し、家庭の和樂人生の幸福を増進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

（二）**入會の心得**　右の趣意を贊成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名、職業、年齢を記して本部又は支部に申込むべし。（贊助會員は口數を明記す）

（三）**會員の特權**　會員には本會機關雜誌「廓清」を毎號寄贈す。

（四）**會員の種類**　會員に二種あり。

一、**贊助會員**　本會の維持費として毎月一口（二十五錢）以上を出資するもの。

二、**正會員**　毎月金五錢を納むるもの。

（五）**會費の納入**　會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。但し郵便集金にて集金する時は集金料金五錢を添加せられたし。

（注意）前項振替口座は、必ず一九五三三番益富政助氏宛とし、裏面に廓清會々費と明記せられたし。

廓清會本部役員

顧問　伯爵　大隈重信
會長　島田三郎
副會長　矢島楫子
同　安部磯雄
會計　山本邦之助
常務理事　益富政助
理事　内ケ崎作三郎
同　鵜崎庚午郎
同　矢吹幸太郎
同　山田彌十郎
同　小松武治
同　小崎千代子
同　島貫兵太夫

廓清　第二卷第六號

明治四十五年六月十五日納本　一部定價金六錢
明治四十五年六月十九日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人　東京府下大久保百人町百三十八番地　益富政助
印刷人　東京市神田區三河町一丁目十六番地　小林照雄
印刷所　東京市神田區三河町一丁目十六番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會告

▲總會

一、六月二十一日(金)午後四時より神田區美土代町基督教青年會館に於て會則第十五條により總會を開く會員諸君の奮つて御出席あらん事を望む

一、總會後懇親會を催す、但し懇親會出席者は會費金參拾錢御持參の事

▲大演說會

一、六月二十二日(土)午後二時より本鄕區春木町中央會堂に於て大演說會を開く、男女老幼を論ぜす奮つて御來會あらん事を望む

辯士

顧問 伯爵	大隈重信君
會長	島田三郎君
副會長	安部磯雄君
同	矢島揖子君
評議員	日向輝武君
同	宮田修君
同	山室軍平君
同	齊藤壽雄君
群馬支部委員長	德江亥之助君
理事	內ケ崎作三郎君
同	山本邦之助君
同	島貫兵太夫君
同	益富政助君

廓清會趣意書

維新の事業は政治の改革なりと雖も、其影響の及ぶ所甚廣し、先づ社會の組織を一變し、尋で人心の束縛を解きたり其内に起れる進動は著々封建の遺制を打破せんとするに際し世界的外來の勢力は、此機運を助け、内外相應じて此に一大急潮を起せり。過去四十餘年、大小の變化と各方面の改革とは、皆此進動の影響に外ならず。

此年間に顯現したる各種の改革極めて目覺ましきものありと雖も、顧みるに不紀律の痕迹甚多し。是れ其年月の不足なるによれり。國内に起りたるものは政治的改革にして。思想涵養の顯現にあらざるにより。外來の勢力、變化を思想に與へたりと雖も、要するに少數先覺の間に限られて、一般の人心に普洽せざるによれり。奴隷の遺制儼として今日に存し世之を怪まざるが如きは、是豈文化の不進社會の不紀律なる一適例にあらずして何ぞ。

明治の初年種族の區別を打破して、國民平等の主義を公示し、其餘勢の及ぶ所久く慣習の囚虜たりし、所謂穢多の階級を廢止して、千古の束縛を解きたるは快心の事なりき。爾來四十年の今日、婦女を賣買して之を奴隷とし、彼等に賣淫を強行し、此組織を公認して、其制度を繼續せり、嘗てペリユーの奴船を差押へたる事件より、内顧反省して、娼妓を解放したりと雖、其改革は外部の變化に止まりて、内容は殆ど舊時の狀態を繼續す。是れ豈人權を尊重する憲政の下に、依然奴制を公認するものにあらずや。而して世上一般に平然看過して、之を不論に置くのみならず、其否認者を斥けて、迂腐の論者と爲し、其制度廢止を以て不可能事と爲す。是れ舊慣に其耳目を蔽遮せられて、事實の眞相を看取せず、觀察疎濶にして、問題の要點を把捉せざるによれり。

抑社會の改善に兩樣の徑路あり。人心の奧底より一新し、善を好みて之を行ひ、惡を疾みて之を避くるは、内發の改進にして、根本の釐革なり。是れ政治制度の達せざる領域にして、宗教教育の力獨り之を善くすべし。然れども外觀に現はるゝものに至りては、政治制度の力其勢を制して、其害の瀰漫を防止するを得。奴隷廢止の如き阿片禁絶の如きは其適例にして、人の行爲を外部より制止し、漸次に心内に其感化を及ぼす者なり。且之によりて新に惡に感染するを遏むるの力甚大なることは切に之を思はざる可からず。

公娼廢止は制度上の改善なり、爲政者の決心能く之を斷行するを得べく、之によりて良好の影響を社會に與へ、又推して人心の改進を裨くべし、是れ目前事實の問題にして、空想の談理にあらず、公娼は婦女自ら墮落して此に至るもの無き

にあらずと雖も、是れ比較的少數にして、彼等の多數は其無智より來る。身を賣りて尊屬の親を救はんと企て、是れを以て犧牲の行事と爲す。此の如き古來の謬想に胚胎し、强者が弱者の人權を蹂躙し、婦女を物視して之を賣買するの弊習に外ならず。『是れ私娼が自ら墮落して自ら其貞操を賣ると相異なる所なり、且彼等自ら改悛して正業に轉せんとするも、其自由を得ずして意に反するの淫行を繼續す。是亦私娼と其狀態を異にする者。而して國家之を公認して所謂廓淸を維持し貸座敷業者を他の一般の職業と同視し、醜業より稅を徵して之を保護するの結果、貸座敷主人は其不義に得たる富力によりて、其醜位地を掩飾し、得々として社會に飛揚し、甚きは公職を帶びて良民を代表するに至る。論者或は此事實の成跡を尤むるも、是れ公娼制度必然の結果にして、原因に一大謬想を有す、此醜陋の事實を現はす亳も怪むに足らざる也。公娼の制度は昭代の一大汚點なるが故に、斷じて之を廢絕せざる可からず。然れども是れ制度に屬する外的改革の主張のみ、內的進修は別に許多の努力を要す。外的作用內的進修相俟て而る後風紀廓淸するを得べし。疾を療せんとする者は內治外療兩ながら廢す可からず。公娼廢止は風紀廓淸の外科的一方法のみ。更に進みて男女貞潔の德操を奬めんとするは本會の目的にして、是れ宗敎敎育法律政治等各般の勢力の援を求め、又學術的調査を要する所以なり。其終極の目的は各個多年の努力によりて之を達するを期せんとす。

廓淸會會則

第一條　本會は廓淸會と稱す

第二條　本會は本部を東京市神田區美土代町三丁目三番地東京基督敎青年會館內に置き、追て支部を各地に設く

第三條　本會の目的は公娼制度を廢止し推して男女間に貞操を進むるにあり

第四條　本會は其目的を達せんが爲に左の事業を爲す

（一）每月一回『廓淸』と題する雜誌を發行すること
（二）時々適當の出版をなすこと
（三）公開演說會を開催すること
（四）帝國議會に公娼廢止の請願をなすこと
（五）當局官廳に公娼廢止の建白をなすこと
（六）公娼廢止の善後策を攻究すること
（七）娼妓其他醜業婦の救濟

第五條　本會に調査部を設け左の事項を調査研究す

（一）公娼に對する現代思想の研究
（二）遊廓其他花柳界の調査
　（イ）婦女誘拐及び誘拐者
　（ロ）醜業婦口入業者
　（ハ）貸座敷業者及び其雇人
　（ニ）娼妓の出身現狀及び成行
（三）公娼制度と法規との關係調査
（四）公娼制度と衞生との關係調査

(五)公娼制度と風紀との關係調査
(六)公娼制度と教育との關係調査
(七)公娼制度と經濟との關係調査
(八)公娼制度と公權との關係調査
(九)外國人たる醜業婦の狀態調査
(十)外國に於ける日本醜業婦の調査
(十一)内外醜業婦の沿革調査
(十二)藝妓酌婦其他類似の稼業者に關する調査
(十三)蓄妾、私通、姦通、離婚等に關する調査
(十四)婦人問題、貞操問題に對する現狀思想の研究

第六條　本會は本會の趣旨を贊成する男女を以て組織す

第七條　本會に左の役員を置く
役員は總會に於て之を選擧す

會長　壹名
副會長　貳名
理事　五名
會計　壹名
書記　若干名

第八條　會長は會務を統理し、副會長は會長を補佐し且つ必要の場合は之が代理をなす
理事は本會の實務を執り、會計は本會の會計を掌る、書記は本會の記錄及雜誌編輯の事務を擔任す

第九條　本會に調査委員若干名を置き第五條の調査をなす委員は會長之を推薦す

第十條　本會に評議員若干名を置く
評議員は總會に於て之を推薦し、本會に對して必要なる助力を與ふ

第十一條　本會に顧問を置く
顧問は總會に於て之を推薦す

第十二條　本會に入會せんと欲するものは原籍、現住所、職業、氏名、年齡を記し本部に申込むべし

第十三條　會員を分つて左の二種とす
一、贊助會員　本會の維持費として毎月一口(金二十五錢)以上を出資する者
一、正會員　毎月金五錢を納むるもの
但し會員には機關雜誌を毎號寄贈す

第十四條　本會に要する費用は會費及寄附金を以て之に充つ

第十五條　總會は毎年五月之を開き事務報告其他會務を議す
但し必要の場合は臨時總會を開く事あるべし

本會々長島田三郎氏、評議員根本正氏、同日向輝武氏、贊助會員齋藤宇一郎氏、同尾崎元次郎氏、同増田義一氏は、何れも今回の總選擧に於て、衆議院議員に當選せられたり。吾人は滿腔の誠意を披瀝し、茲に謹しんで祝意を表す。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

論議

社會の基礎（二）

廓清會々長
衆議院議員　島田三郎

（七）吉原は遂に世界語となる

秘露の奴船事件によつて日本の娼妓ははしなくも解放せらるゝ事となつたが、悲しい哉一般國民の人格未だ低うして、段々後すざりをなし再び奴隷制度の昔に歸つて了つた。賣笑婦は元より外國にもあるけれども日本の樣に公に體面を害してゐるものはない。日本では大阪に大火があつて南の新地が燒けたに就ては、別段國民はこれといふ注意も拂はなかつたけれども、却つて海外にあつては少からざる感興を以て迎へられ之が世界の問題となつた位である。外國人が日本に來ると案內者が市內の名所を伴れて廻る、先づ皇居の前や靖國神社、或は上野東照宮芝のお靈廟等を見物させる。而してこの案內者は最後に必ず夜の景色を御覽なさいといふので、淺草觀音の北の方の吉原を見せる日本の明媚な風光に贊嘆の辭を惜しまなかつた彼等は、玆に於て忽ち憎惡の念に充される。品性の下劣な外人は旅の恥はかき捨てと或は遊蕩するものもあらうが、彼等が歸國すれば必ず此世界になき日本の風俗を嘲罵する。外國の賣春婦の家は極めて隱密に四方を圍つて居つて、恥づべき場所であるといふ事を自覺し、苟も體面を重んずる人は其麼場所に足も向けない。然るに日本では警察官が之を默認して、慈善家が之を救ひ出さうとしても警察官が中に這入つて之を救はしめないといふ事は實に恥づべき制度である。甚しきは貸座敷營業者が廣告をしてゐる。火事があると貸座敷業者一同といふので新聞に廣告を出すといふ有樣或は瓦斯燈をつける電燈や提灯で飾る、甚しきは燈籠を點けて人を誘ひ、花の時には櫻を植ゑて人を誘ふ、これも警察官と提携が出來てゐるから斯樣な不都合な事をやつても警察官が頓着しない。或は又芝居に上場せて人の恥づべき行を晴れの舞臺で見せるといふ事も日本では一向咎めない。人の最も愼むべき節操を賣買するといふが如き醜惡極まる遊廓に關した出來事を、芝居に仕組んで心なき兒童の目に觸れさすといふ事は、敎育上輕々に看過すべからざる事であるにも拘はらず、一向之を人が奇怪に感じないといふに至つては、隨分不思議な慣習風俗といはなければならぬ。されば其結果は日本へ行くと他の國にない見物が出來るといふので、東京へ來れば必ず吉原へ行く、遂に『吉原』といふものは名高き世界語となつて了つた。而も吉原といふ所は或る一ヶ所の遊廓の名と解せず、公に人身賣買をして醜業を許す處の總稱を吉原と覺

えて了つた。そこで大阪の難波新地が焼けると、倫敦タイムスの中にも詳く其報道が出て、吉原が焼けたさうだが之について反對運動があるさうだといふ様な記事を掲げる。如斯之れが日本の名物の如く理解されてゐるに至つては、日本人たるもの豈赧下に冷汗を覺えずに居られやうか、敢て愛國の情に富む日本人の猛省を促す次第である。

（八）他人の幸福と反比例する營業

凡そ國民は納税の義務を負擔すると同時に、之に對する權利のあるのは當然の事で、醜業者と雖も地方税を納むれば地方の政治を議する所の府縣會議員となつて府縣の政治に關與する權利がある。所得税を納むれば無論國税を納むるのであるから、衆議院議員選擧權もあれば、税に關係はないけれども衆議院議員になれる資格もある。然るに外國では縱令富んで居つても卑むべき職業に從事してゐる者だといふと、昔日本で穢多を扱つたと同樣に擯斥を受けてゐると共に、醜業者自身にありても恥づべきものたる事を自覺してゐるが、之と反對に日本では自ら恥づべき事たるを知らない人が之を營み、政府も亦公に之を許し之に課税するが故に、國民當然の權利も之に伴つて獲得せられ、此業者から代議士を出す事もあり得られる結果を生ずる。嘗て大阪より衆議院議員が醜業者から出て、青森縣からも國民の選良として神聖なる國家の議政壇上に現はれた。淺草區から市會議員の候補者、が出て、府下の府中町には現に醜業者の町長があるといふ。而も社會は止むを得ぬ位の事を新聞で一日か二日書いて格別何も咎めないといふ事は、慣習の惰力ではあるが、畢竟營業を公然許されて居る結果に外ならぬ。これは營業であるから當り前の事だ、米屋も女郎屋も同じものだといふ觀念があるからである。併し乍ら此營業の繁榮は常に他の家庭の幸福と反比例の關係を有つてゐる。一方に於て此營業の榮える時には他方に於て必ず家庭の苦しみを包藏してゐる。這麼營業なるものがあり得べきではない。國家が之を制度に於て公然許すといふ事は、眞に咄々怪事と云はなければならぬ。

盗賊を自分がするのは其人が惡いのである。併し乍ら他の人が勸めて盗賊をやらして、お前は契約の上に三年なり五年なり盗賊の商買を續けなければならぬといふたら之は大事件である。罷めやうとしても罷める事が出來ないで束縛さるゝ公娼制度は、之を道理の上から見ても風俗慣習又は體面の上から見ても、如何なる點から見てもこれ程間違つて居るものはないといふのが公娼制度に反對する理由である。併し乍ら世の中がまだ理想通りに綺麗には行かない今日にありては、泰西の文明國にても極めて密に人の眼に見えないやう、自ら恥しい生業だとは思つても、貧窮の結果餘儀なく、或は墮落の結果己れの身の虚榮心に制せられて、醜業を營む者はあるが、彼等は其賣笑婦たる事を人に覺られたら縱令如何に立派に衣服を着飾つても、込み合つた汽車の中でも人が其傍を避けるといふ程迄に賤しめて居る。斯樣な有樣であるから假しや繿褸を纏ふとも、假しやパンに窮するとても此の如き社會

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

には這入りたくないといふのが、一般の氣風であるから自然取締がつくのである。然るに我國の如く之を公に許し營業として國家が認め、衆議院議員も出る事が出來るといふ制度であると、何の恥づべき事かあらん、税を拂つて政府の公に許してある所の營業をなすのを咎めるのは間違てゐるといふ觀念を產み、藝妓になるのは婦人の登龍門であるといふやうな途方もない思想も生ずる。

（九）公娼制度は野蠻時代の遺留品也

昔は東京以外の地方の總て途中にある宿驛には、東海道でも中仙道でも皆宿屋の食事の給仕をする飯盛女といふ賣笑婦を許してあつた。これは其時代には日本では人の權利の認められない時代で、武士が人を切捨てゝも咎めのないといふ人の命の保障すらなかつた時代であるから、女が金によつて恥かしい事をするといふ位は餘り不思議でもなかつたのであるが、旣に斯かる野蠻時代は過去つて了つたのに、獨り姿こそ變つた昔の儘の賣笑婦が殘つてゐるのは、之は昔の遺留品と名けるのが最も適切であらうと思ふ。外國から見て日本は文明國だといふけれども、如斯昔の遺留品を後生大事に守つてゐるから野蠻の域を脫しないといふので、それが國交上に種々の障害をなしてゐる所以であらう。中には公娼廢止論者に對し存娼論者の側では、左樣な事は不可い、公娼を廢するなどゝいふ事は到底行ふべからざる事である、これは日本の華とも見るべき美しい風俗だと論ずる痴漢がある。嘗て貸座敷業者が聯合して『この花』新聞といふものを發行し――政府も出版を停める事は出來ないから止むを得ず警察官が檢閲をして發行を許してゐた――盛んに醜業の廣告を世の中に配つて居つたといふに至つては、風紀上の不取締は驚くべきものである。つい此頃も國の華『國華新聞』といふのが醜業者の機關となつて、盛んに廣告をして、我々は堂々たる國の許した營業者であるといふて之を世間に配付してゐる。私娼は法律が之を咎め、警察官が之を咎めるからこそ〳〵とやつて居つて、公娼は公に許してあるから機關新聞などを發行して公然と振舞つてゐる。風俗壞亂といふ點に於ては果して何方が害が多いであらうか、小説に娼妓を買つて色々なたわけたる事をする狀態を書けば直に風俗壞亂として之を停むるのは事實である、想像を小説に仕組んだものは害があるが、實物を圍つて之を眼に觸れるやうにして人を誘ひ、廣告を撒き散してゐるのは害を認めぬといふのは、矛盾も甚しきものであつて愚劣極まる取締法である。

（十）存娼論者の根據

恁う考へると此制度の背理不徳なるものであるといふ事極めて明白であるが、それにも關らず如何にして之を必要なりとするに至つたかといふと、略左の二つの理由があつた。即ち公娼は檢黴が行はれて梅毒の蔓延を防ぐ事を得べしとする事と、一つは私娼は他の良民の間に雜居して到る處に散在してゐるが故に、風俗を害する事甚大なれども、之を一區廓内

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に容れ他の良民と別にして置けば他の者の風俗を害さないと以上の二つを守本尊として成立つたのである。然るに彼等が靈驗いやちこなりと信じて三拜九拜して居つた守本尊は、あはれ信心の甲斐もなく、更に何等の効驗も見えず、漸次に其威嚴を失墜し來つたのみならず、却つて本尊樣が裏切りをして今や矛を逆しまにして彼等の心臟を抉り肺腑を屠らむとしてゐるのは、寧ろ滑稽である。

彼等の金城鐵壁と賴んだ花柳病豫防法は我等の友たる醫師齋藤壽雄君の經驗によつても充分其無効を證據立てられる。同君は嘗て衆議院議員にも當選された眞面目な人であるが、初めは矢張り存娼論を唱へて衞生上私娼といふものは檢黴を行はないから害があるといふ説で、遂に自ら檢黴醫となつて縣下を歩いて嚴重に取締るといふ迄奔發した。然るに其經驗の結果は存娼論といふもの〻全く空論であるといふ事を悟つた。それは現下の制度の下に行はれて居る檢黴位でその目的を充分達する事は思ひもよらぬ、一週間に一度位の檢黴で以て果して保險が附くや否や、客の中にも病人がある、あの客は病氣があるから侍らないといつて居つては營業が榮えない本人にも病氣がある、病が癒える迄業を休むといふて居れば利益がなくなる、主人は素より殘忍酷薄、人を憐む意志は毫頭もない處から斯ういふ業が出來るので、あの客には接する事が厭だといつても無論許さない。自分が病氣であつて營業に堪えないと訴へても無理に客に侍らすといふ狀態である。之を見て齋藤君は忽ち廢娼論者に變つてしまつたが、この衞生上檢黴の効力を疑ふに就てはもう一つの理由がある。長い間檢黴醫をやつてゐる醫師はどうであるかといふと、醜業者の間に交つてそれ等の人の機嫌を損はぬやうに業を營むといふのが常態で、かくして醜業も榮え醫者自身も榮える事が出來る。果して營業の利益に逆らひ主人の殘忍なる氣性に反對して本當の檢黴が出來るや否や、斯樣なる檢黴は名あつて實なきものたるに止まらず、却つて安全なりと信せしめ、男子を誘ひ入れる媒介になるのであるから、衞生の點に於て害あつて益なく、保險なくして危險なりと斷言する事が出來るのである。更に此現行檢黴法に最後の止めを刺したのは、京大教授松浦博士で本誌第三號誌上に於て博士が其專門の立場より匙を投じ、銳利なるメスを奮つて物の見事に最後の動脈を切斷してしまはれたので、最早一點論難の餘地もない事となつた。

(十一)　集合は力也

第二に風俗といふものは中に一つ惡い者があれば他の者にも忽ち感染する性質のものである。彼等は一區廓に圍つて此感染を防がんとしたのであるが、何ぞ知らん彼等は「集合は力なり」といふ原則を忘れて居つた。それに散在しておつたものを一ケ所に集める事は、暗闇のものを明るみに出したやうなものである。況んや種々の手段を以て良民を誘致し、國家の保護を受けて營業するといふのであるから、果然結果は全く豫期に反し道德破壞の一大勢力が茲から發する事とな

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

つた。外國にまで知られてゐる三千の娼妓を有する日本第一の遊廓たる吉原に就て見るも、其附近の淺草には同數以上の私娼がゐるのである。警察官も外の處は手をつけても茲だけはそつと放任して手をつける事も出來なかつた位であるが、近時遂に其弊に堪え兼ねて大に取締法を講じ、遂に檢黴も實施する筈だそうである。由是觀之公娼制度が何等四隣を清うする効果なきのみならず、之が惡い事であるといふ觀念を世の中に與へずして、餘儀なき仕方のないものであると思はしむるが故に、却つて人情を破り風俗を紊り、國の體面社會の利益兒童の敎育靑年の元氣產業の進歩を害する事甚しいものであるといはなければならぬ。即ち彼等の守本尊が返り忠をして却つて彼等の本陣に肉迫して來つたのである。

（十二）公娼と下水と

今假りに公娼を譬へて見れば、汚い水を町に流し込む樣なものである。併し乍ら有るものであるから仕方がないではないかといふ人があつたら何うであるか、娼妓を公許して、醜業と名のついたものを公然許可して、自ら悔改めて之を罷めやうといつても罷める事の出來ない樣に束縛を加へて、之が賣買は公に許されたる賣買であるから恥づべき事でないといふので、此處を懇親會の場所とし集會の場所として怪しますず新聞に廣告を出して憚らず、或は代議士を出し若くは選擧權を與へ世の中の總ての事が區別のないといふのは、恰も町に下水を流し込んで、これは有るものだから致方がないといふ事と違ひが何處にあるかといふ事を私は思ふのである。少くとも斯樣なものは恥づべきものであるといふ觀念を社會の人に惹起せしむるには是非共公娼を閉塞して之を廢止しなければならぬ。外國においても甞て檢黴をして之によつて病毒の蔓延を防ぐ事が出來るといつて居つた時代があつた併し段々經驗の結果は衞生上に於ても風俗の上に於ても、人道の上に於ても宜しく遊廓なるものは廢さなければならぬといふが世界の輿論となつて、恰も英吉利で奴隸制度を廢した如く、即ち萬國廢娼會の活動が起つて今では世界何れの場所にも其仲間があつて既に成功して廢止し終つたものも尠くないのである。

歐羅巴を旅行して歸つた人は屢々佛蘭西獨逸の如き文明國にも私娼があるのであるから日本に娼妓があつたつて耻づべきでないといふ。けれどもそれは斯樣な暗黑面を旅行して其暗黑面に染まつた人ではないかと思ふ。そして此方面に於ける道義觀念の鈍つた人ではないかと思ふ。外國にも監獄がある盜賊がある。何ぞ日本のみならんやといふと同樣の議論である。併し乍ら盜賊は罪惡として之を咎めて之に對する相當なる刑罰があり、之に對する權利の剝奪停止があるのである私娼は權利を剝奪せられ、目つかれば咎めを受けるものになつて居るけれども、公娼は然らず、或る場合には公然の席に現はれ世人も亦之に接する事を耻づべき事でないとして怪しまぬといふのは、確に文明の進みたる國なりと自ら許し他も亦之を稱して居るうちについて唯日本國あるのみと斷言する

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

事が出來るのであつて、外國の私娼の性質と日本の公娼の性質と異る所の要點は實に此にあつて存する。

（十三）公娼制度は社會の基礎を危うす

日本が嘗て公娼は斷然廢さなければならぬといふので大政官布告を以て多少制度を改め、今日の貸座敷制度にしたといふのは此議論から起つたのであるが、そこが段々緩んで制度はその儘存して居るに拘らず、之を行ふ所の實施の手續がゆるんだのであるから、昔の通り依然として束縛が嚴重であつて、餘程物を知つたる勇敢な人の助けを受けなければ娼妓を罷めんと欲しても罷める事が出來ないやうな狀態にある。これについて驚くべき話がある。京都で廢業をしやうと思つて廢業の出來なかつた所の娼妓がある、警察官の處へ行つて廢業したいといふ事を申出ても、よく考へて見ろ猶取調の上でと之を引延しておいて、其娼妓を宿めて置く家即ち貸座敷の方へ通知してやるから、其主人が出て來て伴れて歸る。どうしても廢業することが出來ぬといふ。救世軍から密かに手紙をその娼妓の處へ出して廢業の理由を聞くと、長い間肺病を患つて最早體が用ひられないといふのであつた。これは實に容易ならぬ事である。若し檢黴があつて客に害を及ぼさないといふ取締がついて居るならば、他の病氣にかゝつて殊に最早身體が使へない程の肺病の娼妓に猶爲業をさせて置いて、廢業をさせないといふ警察官の束縛は如何、貸座敷主の殘忍は如何、また之を安全なりと信じて行く客の危險は如何、殘忍なる貸座敷業者は我に利益だにあらば人の命何かあらんといふので、遠慮會釋なく怖るべき病毒を一般に蔓延せしめて顧みないといふ。斯樣な事を良民が晏然として見て居る事が出來やうか、此の如く殘忍なる、此の如く不道德なる、此の如く危險なる事を社會慣習制度なりとして看過し去る事が出來やうか、若し之が公娼でなかつたら自分は最早醜業をして體を用ひるに堪えないといふ事を知る瞬間に、之を廢業する事が出來るのである。如斯戰慄すべき事實を蓋ふて、尚公娼に於ては檢黴あるが故に危險なしといふか、私をして忌憚なく云はしむれば檢黴醫の上に危の字を冠らしめ、檢を險に改めて危險黴醫とする事の寧ろ當れるを信ずるのである。醫師の檢黴があるからといつて安全なりとしてかゝる處に足を踏み入れる不用心さ加減も亦憐れむべきものであるが、法律の運用其宜しきを得ずして貸座敷制度を昔の儘なる奴隸狀態に置く警察官の蒙を啓き、大に政府當局の猛省を促すの必要を切實に感ずるのである。公娼制度は實に社會の基礎を累卵の如く危からしめ、國家の前途を薄氷の如く寒心に堪えざらしむるもので、之れ吾々が慨然として起ち、正義の聲を擧げて廢娼を標榜する所以である。冀くば眞に國を愛し世を憂ふる志士諸君、文明國の體面を保持し社會の基礎を定め、道德を振興し國運の隆盛を圖らんが爲め、此制度に斧鉞を加へむとする我廓清會の運動を援助せられむ事を。（完）

（廓清會靜岡支部發會式にて）

女子問題

衆議院議員 法學博士 鵜澤總明

△從來の女子問題

我が國に於ては女子が社會的、政治的活動を爲す場合は甚だ少く、大方は家庭を根據とし、又は之れを中心として活動するので、社會公衆の問題に觸るゝ場合に於ても、主として家庭より發する音波の搖動に過ぎないやうである。古來孝女節婦の能く世を動かし、人を感せしめたる實例少なからずと雖も、そは社會的、政治的に活動したる場合ではなく、多くは家庭に於ての働らきである。殊に男子の組織したる政治界に、女子が仲間入りをするのは、不適當な次第である。

△何時より男女の地位に別ありしか

神代の事は漠たれども、その當時にあつては、男女分業の制度、未だ確立せず、女子の職業と男子の職業と常に相隔たることが出來なかつたものゝやうである。從つて女子の地位も男子の地位を離るゝことが少なかつたのである。男女問題の漸く緒に就かうとしたのは、漢籍傳來の後に在りと云ふてよいであらう。我が國に外交的の意味で、漢籍の傳來したのは、垂仁の朝、王仁の論語、及び千字文を獻じたのに始まる而して此等の書物に依りても、已に男女の地位は略定めらる所ありて、幾多の影響を及ぼしたるを知るに足るのである。其後漢學の思想益盛となり、又建國後國家の基礎愈堅牢となるに從ひ、男女の天性は次第に其本分に向つて分化し、兩者の地位亦相同じからざるに至つたのである。

△儒敎の女子に對する觀念

列子(天瑞篇と思ふ)には男女の別は男尊女卑とあり、禮には天高地低乾坤定矣云々の句があつて、婚姻制度の如きは、二性の好みを求むるもの、彼の窈窕たる淑女は、君子の好逑たりと雖も、しかも已に男女の地位は自然に定まれるものにして、女は室家の友、男は天下社會の活動者たることは、孔子の尊びたる禮即ち制度の上より見るも亦明白である。孔門の六藝は禮樂射御書數で、こは士以上を敎育する學問である。士大夫以上の社交界は政治の餘暇に現はれたるもので、共に男子の本分に係り、女子の多くは與からぬ所である。斯の如くして分化は次第に深き道理を生ずるやうになつたのである。

△歷史上より見たる女子の地位

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

漢學の傳來と共に、後には唐の制度迄も日本に來た次第であるから、日本に於ける女子の地位は、上に在つては內宮內室に存し常に陰性に傾いたことが分る。從て法律上、政治上に於て認めらるゝ人格は甚だ薄弱であつた。白樂天の詩に、「人生婦人の身と爲る勿れ、百年の苦樂他人に倚る」といふ意味のあるのは棄てられたる婦人の境遇を描き得て妙なりと思ふ。藤原氏の時代に於ても、平家の時代に於ても婦人の地位は男子の好遇たることを得れば、僅かに幸なりと云ふに過ぎなかつた。佛敎の渡來後も婦人の地位は毫も變動することはなかつた。寧ろ現在の地位の微弱なるを諦らめて、消極的に安心を求むる工夫に耽らしめたといふべきである。淸盛に捨てられたる祇王の今様には『佛も昔は凡夫なり、我等も終には佛なり、三身佛性具しながら、隔つる心の憂てさよ』とありて、獨り淸盛の寵を擅にせる佛御前を妬むのみに非ざることを推知することが出來る淸盛の子重盛の美人を集めて燈籠守となしゝ類は、如何に佛法歸依の餘とは云へ、極端に走りたるものと謂はなければならぬ。源家の時代と云つても婦人の地位は高からず、北條、足利の時代も亦同様の狀態であつた。婦人にして會々勢力を得て男子を頤使し、飜弄したものゝ起つたのは、眞に例外と見るべきものである。應仁以後の亂世に於ては、婦人の地位の向上すべき筈も無く、德川時代に至つては、婦人の地位は德川の天下の固まると共に、益々陰性に定向せるを見る可く、近松の戲曲、貝原の女大學共に女子に無限の忍耐を强て需め、殆んど女子として獨立の天地が無いと見ゆる迄である。

△農家に於て僅に女子の地位を保てり

凡そ日本帝國の歷史制度、又は時代時代の文學等から判斷せんか、女子に與へられたる獨立の天地、自由の範圍は甚だ狹きものと爲るであらう。然し事實は此等の形に於て見るよりも猶自由な處が無くては人類の進步と發展とは到底望むべからざる筋合であるから、恐らくは女子の地位は自由と獨立とに於て缺くる處ある丈けに、又男子に依つて保護せられた點も少くなかつたであらう。然し保護に過ぐれば却て益々纖弱となる道理であるから、男女は保護關係斗りで經過し來れりとは斷定する事は出來ない。思ふに我が帝國が農業國としての政策を取り、農業本位に政治の理想を定めたる以來、女子の地位は農家に於て最も健全なる方向を取つて進み來たものと思へる。農業に於ては男女の勢力に大した懸隔がない專制治下に於ける農業に基本團體たる農村に在つては、男子の政治範圍も又其社交範圍も、自ら制限があつて、之は女子と著しい區別をすべき程のものでは無い。男子の耕耘の業と女子が家に在つて子女を鞠育するのと別して差違はない。故に法律、政治上の地位の異る程に、實質上の地位の異る譯のないのは自然の結論であらう。都會に於ける町家の家庭に在つても亦同一なるべき筈であるが、都會に在つては或は社交上の關係、或は男女の娛樂上の關係に於て、農家に於けるよりも女子は壓迫せられたものゝやうである。從て又女子に對

し消極的に慰安の方法も講せられ、芝居道の如き、遊藝の會の如きもの次第に發達し來たのである。士族の家庭に有つては婦人の自由、到底農家や町家に比較し得可きに非らざるものと見る可き點が多い。

△明治の聖代となりては如何

日本は家族制度の國である。家族制度となつた由來に就ては玆に述べず、別に家族制度に關する研究に讓るであらう。唯現在に於て家族制度の國なることを見て居ればよい。而して我國は家族制度と言ふも、家長若くは戶主專制の國である幸にして漢學者の云ふ禮に依り、倫常の敎を以て一般の風俗を形成して來たので、峻嚴なる法律の下に於けるよりも實際の弊害は少いが、猶娘を賣る父あり、妻を捨て子を棄て、家產を蕩盡して顧みぬ夫がある。實に憐む可きは斯の如き境遇の下に在る婦女である。時世は永久に此狀態に居るを許さぬ、明治の聖代となりてより歐米の文明流れ來り、社會各般の方面に革新の曙光は輝き渡つた。而して明治の新機軸とも許す可きか。先づ法制を基本として天下を治めんとするに至り、女子の地位も亦法律上に於て多少の承認を得るに至つた從來の家族制度も幾分か其精神を改めて、法制上に於ては家族制度は家族主義と、個人主義との折衷となり、家族は二重の軌道を步むことゝなり、所謂單線式にあらずして、復線式となつたのである。仍て女子の地位を觀察するに當つては、公法上に於ける女子の地位と、私法上に於ける女子の地位とに分つのが便宜であらう、乃ち之を大別すれば

△法律上に於ける女子の地位

公法上に於ける女子の地位は(イ)行政權上の地位としては任官の權、官立學校敎員、女子判任官等がある。(ロ)立法權上の地位、(ハ)司法權上の地位は無し、宮內官に就ては略す私法上に於ける女子の地位としては(イ)戶主となる權、(ロ)親權者となる權、(ハ)親族會員となる權、(ニ)營業を爲す權(但し制限的)(ヘ)推定法定家督相續人となる權、(ト)遺產相續人となる權、(ト)訴訟當事者となる權(制限的)(チ)契約締結の權(制限的)(リ)婚姻並に離婚の權、(ヌ)會社員となり、又は法人設立を爲す權等。

以上の如き法律上の地位を有すれども、猶私法關係に於ては制限的にして、公法關係に於ては絕對に有する事の出來ない權利、或は權限が多い。此事は獨り日本のみではなく、世界各國、其國情により多少異る所ありとは云へ、女子の權限の薄弱なる點に於ては大差がないのである。玆に於てか女子の地位を向上せしむる目的を以て、各種の運動行はるゝに至つた、女子參政權運動の如きは、乃ち其一つを爲せるもので日本に於ても亦幾多の問題を起さなくては止むまいと思ふ。

△女子問題を解決する根本問題

抑も人類は自發的に滿足することを得るものであらうか。或は滿足ありとするも、凡て因果の法則に連結せられたる必

然の鎖の一鉤子上に於ける不自由の者なりと覺りての締らめの滿足のみであらうか。人類には休息あり、靜臥あり、而して休息、靜臥は意志の活動から來る心身作用の一部にして、寧ろ自由なものが多い。身體活動の結果より慣習的に來る休息ありと雖も、然も之れ亦自由である。自由を奪はれての休息は疲勞より起る場合にのみ之れを見る事を得可く、而して此の場合に於ては、之を休息と言ひ得可しとするも、自覺したる休息ではない。從て滿足の感情は起らないのが通則である、蓋し滿足は休息靜臥に對する感情の表現であつて、意思活動の勝利に伴ふものである。即ち勝利ある處には必ず滿足あり、勝利無き處には眞の滿足はない。人或は知的滿足と謂ふ。諸行無常の眞義を悟りて諦らめの滿足を爲すと云ふのである。茲に安心立命を得と謂ふのである。然れども若し此等の意義を以て、單に知の働きに制限して、知的に悟るのみと言はゞ、實は失望はあり得可けんも、滿足はあり得可らず、虛無靜寂に歸るのは滿足ではない。一切を否定し去ることである。現象世界を舉げて、心の作用に歸するが如き唯心論の立場から見れば、眞我に觸れたる刹那に於て、知的希求の終極に達したりとは爲し得可けんも、此場合には已に希求あり意志の活動ありて、其目的を達することを得たるが爲めに滿足があるのである。靜なる知の世界に非ずして、活動ある意志の世界である。故に個人我が滅すると爲すも、猶大人格活動の領域に入らなくてはならない。汎神教の觀念に於ては、一切萬物皆神である。故に本來上下貴賤尊卑の區別のある可き謂れが無い。故に一切萬物の現はれたる處に於て、別に不完全ありとも、不服ありとも言ふこと能はず、即ち一面より見れば總て皆滿足である。而して又他の一面より見れば總て皆不滿足である。而して何れの場合に於ても自發的滿足ではない。皆必然の結果である。靜臥も休息も因果の一鉤子にして、若し茲に自由ありとせば迷妄なりと見る也。國家若くは家族、若くは女子問題の如きも、此根本觀念の異るに從ひて解決は自ら異なつて來なければならない。

△今日の女子問題

日本の家族制度には儒家の影響を受けたる所多く而して女子問題に就ては佛教の影響、或は汎神教の影響を受けたるものが多い。藝娼制度、躍の如き、頗る汎神教の影響を受けて居る。然るに今日本に於ても亦歐米諸國の影響を受けて、女子の問題に就ても新たなる解決を與ふ可きや否やの時代となつた。試に今日の女子問題を大別すれば、(一)獨身問題例へば敎育家、商業家、產婆、醫師、美術家、官吏等にして(二)家庭問題、離婚問題をも含むで居る、(三)工女、女中等の問題、看護婦を含む、(四)人身賣買問題、(五)政權問題等である。(女子青年會講演會に於て)

基督教信徒と新代議士

加藤勝彌氏(越後村上教會長老)齋藤宇一郎氏(牛込教會長老)田川大吉郎氏(富士見町教會長老)鵜澤總明氏(富士見町教會長老)以上日本基督教會所屬。日向輝武氏(靈南坂教會員)兒玉亮太郎氏(同上)岡田榮氏(同上)以上組合教會所屬。根本正氏(銀座教會員)田代進四郎氏(仙臺教會員)以上日本メソヂスト教會所屬。田村順之助氏浸禮教會所屬。島田三郎氏無教會

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

公娼問題解決の要點

廓清會評議員
成女高等女學校長　宮田修

(一) 慘憺たる彼等の運命を見よ

自分は從來賣笑婦に關する智識に乏しかつただけ、廢娼問題に對しても、唯單純に贊成の意嚮を有しておつたといふに過ぎなかつた。けれども先達て出版された『賣笑婦の研究』といふ書に書いてあつた一娼婦の懺悔談を見、多少彼等の實生活を窺ひ知るに及んで、始めて痛切に此問題の忽にすべからざる大問題たる事を悟つたのである。今左に其一節を摘錄して讀者の一考に供しやう。

『私は神田三河町に生れたものださうですが、お父さんが死亡りますと、すぐ繼母さんに新吉原の某樓に賣られて禿となりました。十六の春から初見世の披露と共に突き出されて、始めてお客を取ることゝなり、それよりうか／＼と十八年の月日を過し、三十三歲の時初めて妓夫の山田寅藏といふものゝ妻となる事に定まり、足を踏入れてより恰度二十六年目に廓の地を離れました。廓生活をなし續けたものゝ哀れなる樣は、確に廓に居つた日よりは寧ろ廓を出てからの話です。私は寅藏の妻となりましたが、何にせよ足掛二十六年も廓におつた身です、三百六十五日鏡の如くに平坦な廓下と梯子の昇り降りだけです。驅黴院へ檢査に出掛けますのは勿論車ですし、道路を歩くと申した所がたかが廓內の隅にある瓢箪池位のものです。可笑しい樣な話ですが、最初は實際道路が高低に見えまして何となく足元が險吞で躓きがちでありました。それは兎に角大事の／＼御飯の炊きやうも分らず、お菜のこしらへ方、鹽加減などは無我夢中で勝手元でたゞうろ／＼してゐる位のものでした。虎藏の母はいくら女郎揚りだとて這麽ものを連れこまれては家の身代が堪るものかと、毎日／＼口汚く罵るのみで、かいくれ數へて吳れやうともしません。私も三十三歲でせう。まさか子供のやうに無神經になつて居られず、時としては如何に女郎揚りだからつて、勃として腹の立つ時などには思はず二言三言諍ふこともありました。それが爲め、家庭はいつも／＼不和で愉快だと思つた日は片時もありまんでした。僅に三ヶ月ばかりで追出されましたが、さて斯うなると死ぬるには死ねず、生きるには生られず、針と申したら綻び一つ縫へず、洗濯と申してもこの齡まで致した事がないのですから、今更人樣の洗濯をし、生活を立てるといふ譯にもなりませず、お恥しい次第ですが背に腹はかへられず、矢張り皺だらけの顏にお白粉塗つてあの銘酒屋奉公より外は出來ません。どうも堅氣のお方にはかたづけないのですから、二度目は娼妓周旋業を營める大島文平といへる者の內緣の妻となりました。矢張り野に置け女郎花です。人の妻となつて一家を經營する位骨の折れた者はありません、男もさうでせう。野に咲き揃つて麗はしいと思

つた女郎花も、一枝折つて家に持ち歸つて後は美はしくもなければ、別に斯うと申した面白味もありますまい。間もなく文平は病死しました爲め又もや銘酒屋に舞戻つて淺ましい生業。三十九歳の永い過去は唯怖ろしい暗い〳〵闇で、なんといふ殘酷な世の中だらうかと廓を出てから、泌々感じました世界廣しと申しても私一人を容るるの餘地もなく、僅に身を容るゝ所と申しては銘酒屋の如き淫賣窟より外にはないのです。今日になつて、廓に居つた時の氣樂さが何となく戀しく、慕はしくなり、却つて現在の世の中が怨めしく果敢なきやうに思はれるのです。嗚呼何事も世の中の事は夢と諦めては居りますが、私の目下の境遇より推して、廓生活をなしつゝある現在の女郎の身の上がどうなるものかとそれが偲ばれるのです。』

（二）社會の罪は個人に責任あり

自分が感じたのは此女の一生涯に就てゞある。元より廣い世の中の事ではあるし、幸不幸の運命の差別は免れなからうけれども、十六歳から二十六ヶ年間の長い月日を、淺ましくも媚を賣り我と我肉を鬻いで來た果ては、人並に社會の水平線上に浮ぶ事もならず、深い〳〵谷底に泣き沈んでゐなければならぬといふ呪はれたる此の樣な女、而も此の樣に呪はれた女が我等の同胞姉妹である事に思ひ至る時、誰か惻然として涙の迫まるのを禁じ得るものがあらうか。そして此外に幾萬といふ澤山な同胞が、彼女と同じ運命の糸に操つられ、彼女と同じ軌道によつて、何の光明もない眞暗な隧道の中を悶えに憔げた灰色な氣息を喘々焉と吹いて、いつ明るい處へ出られるといふあてもなく、絶望に勞れた足をひきずり、後から叩く殘忍な笞の音に逐はれて、泣く〳〵何處へともなくとぼ〳〵と辿つてゐる事を思ふ時に、誰か一掬同情の涙を禁じ得やう。

凡そ世の中に可哀想なものと云つては色々あらうけれども自分で自分の身體が自由にならない程、可憐なものはあるまい。此女の如きは今や三十七歳といふ分別盛りであるにも拘らず、自分一人の身體を始末する事も出來ないといふ境遇にあるのである。尙此種の樣々な話が此書物の中に出てゐるが何れを見ても悲慘な運命に泣きくづれてゐる者にあらずんば、もう血も涙も盡き果てゝ良心が痲痺して了つたものばかりである。

他人の事といへばあまり深い感じも與へないけれども、それが自分の知人であり或は親類縁者であつたならば更に又自分の骨肉姉妹であつたとしたら、何人も默認してゐる譯には行くまい。此廢娼問題は多くの人によつて唱へられ、多くの人に論ぜられるやうになつたが、詮ずる所公娼の存在は社會の不健全な結果である。社會を組織してゐる上よりいへば我々も其一人であるからして、社會に罪があるとすれば即ち我等も同じく責任を擔はなければならぬ筈である。決して他人の事とし對岸の火災として袖手傍觀する事は出來ない、我等は責任を覺知しなければならぬ。

（三）問題解決の鍵

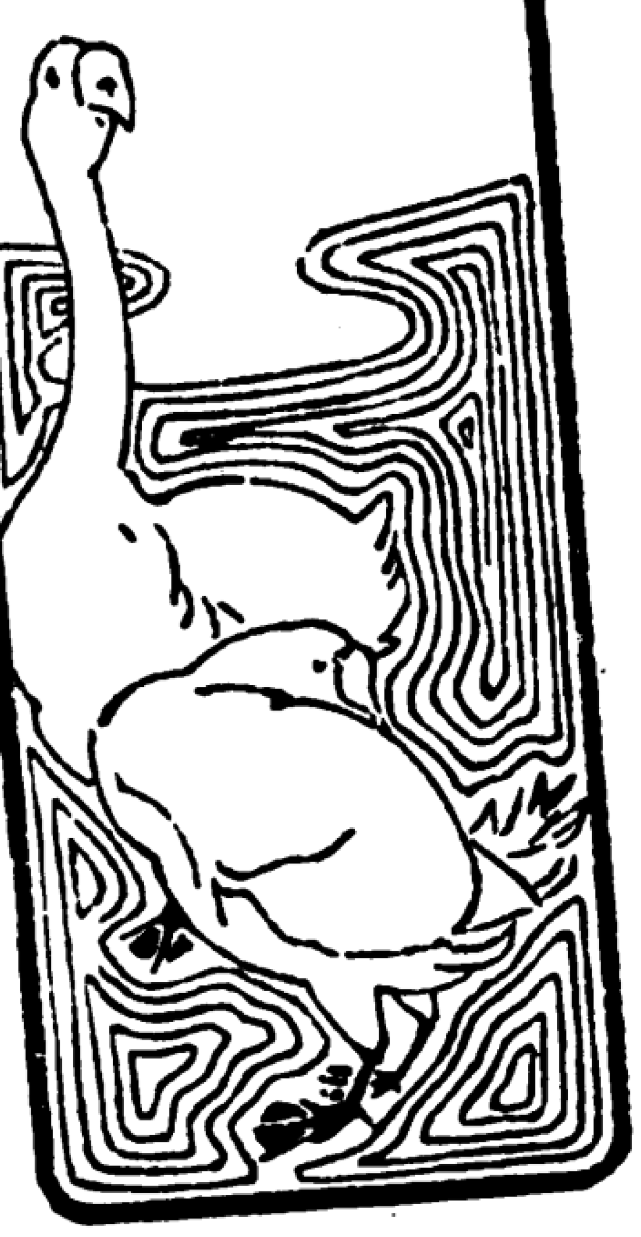
世の中には色々の問題があるが、此中遊廓の問題といふものは國家が公認してゐる問題である。我々が如何に喧しく云つた處で、政府が許してゐるではないか、税金を納めてゐる營業ではないかと之を經營する當事者が公言して居る問題である。這麼破倫の公認非行の營業があるべきものではないのである。併し乍ら此等の營業を營んで居る者共と雖悉く獸物ではない。心の奥底には何處にか多少人間らしい血は通つてゐる。自分は曾て此のやうな家庭から子弟を預つてゐた。——私は必ずしも頼まれゝば拒まうとはしない、否寧ろ這麼子弟に清潔な滋味を與へてやるのが我等の義務の一つであらうと思ふから——兩親などが來る時に私は其親に向つて、何故に今の樣な淺ましい商賣を廢業しないか、といふ事を勸めてゐる。其時に彼等が答へていふには、成程お說の通りであるが、併し乍ら吾々は貴下方が仰せられるやうな具合に簡單に止める事は出來ない。今迄の惰性がある、今日の仕事を止めて他の正業に就く事は結構な事には相違ないけれども、經驗を有つてゐないから充分見込のつかない限り妄りに轉業する譯には行かないといふ、之も尤な事である。併し如斯狀態にあるのであるから此制度を廢止する事は、寧ろ彼等に轉業の機會を與へてやる事になるので、這般燒けた洲崎遊廓の廢止は最も適當な機宜を得た處置であると確信する。これ等の絶好な機會を逸するやうでは何時迄も世の中の惡い制度を打破する事は出來ない。貸座敷業者にしても心の奥底には寢醒めが惡く、這麼因業な仕事は廢めたいといふ衷心の眞實な聲があるのだから、爲政者たる者須く此邊に留意して機宜を誤らざらん事を切望する次第である。

當局者にありても、宗教家若くは教育家、憂國の士等が吾々に忠告して吳れるのは難有いけれども、品位ある少數の人の忠告に應じても、多數の社會が果して承知するかどうかといふ事を考へなければならぬ。それ故にいゝ事とは知りつゝ時機の來るのを待つてゐるのだといふ事を屢々云ふ。これは元より然かあるべき事であらう、此廢娼問題の如きも思ふに當局者が惡い事でないといふ事位は知らない筈がない。問題の要點は唯茲にあらうと思ふ。即ち我徒の要する處は多數の聲である。輿論の振作である。一部少數の高い人格を有つてゐる人のみの理想にあらずして、最早今日は國民多數が其存在を認めない事を知らしめる事これが、此問題を解くべき唯一の鍵であらう。

今日は斯ういふやうな機會であるから、茲に大に吾等正義の士が團結の力を强うし、多くの輿論の力によつて、之が多數國民の希望たる事を當局者に知らしめなければならぬ。さらば當局者は寧ろ喜んで贊成し、火災に罹つた洲崎遊廓をして再び營業させる事を許さないといふ事は明白に察する事が出來る。問題解決の要點は唯多數者の聲なるか否かにありて存するのである。今日は最早此制度の善惡は論じ盡された。此制度の不合理非人道なるは最早一點辯駁の餘地がないのである。（洲崎遊廓問題演說會にて）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雜誌の雜誌



○宗教

生活理想の變遷

護　　　教

近頃歐羅巴又は亞米利加から歸つて來る人々の中には、西洋では宗教が衰へて其結果道德が非常に頽廢したと言つて歎息するものがある。又人々の宗教に對する興味は毫も減退したのではないが、現存の教會に對しては一般に冷淡になつて居るといふやうに觀察するものもある。又近代物質的文明の進步は確かに人々をして宗教に冷淡ならしめたのであるが、近來漸く眼が醒めて、今日では宗教復興の兆があるといふものもある。是は獨り西洋から歸つて來る人々の觀察ばかりではない、歐羅巴又は亞米利加に於て近頃發行せらるゝ新聞雜誌及び著書にも之と同じやうな觀察を發見するのである。宗教が果して衰へたのであらうか、單に教會に對する興味が減少したのみであらうか、それとも又宗教といふ語の意味が變つて來たのであらうか。其處は解釋の仕方でどのやうにも言ふことが出來やうと思ふが、生活に對する人々の理想が變つて來たといふことは確かな事實である。宗教は何ぞやといはゞ様々の說もあらうが、生活は其最も重もなる要素である。而して生活に對する理想が變つたとすれば、宗教といふ語の意味が變つて來るといふことは自然の結果である。是が見方に依つて宗教の衰へたといふことにもなり、又教會に對する興味が減少したといふことにもなるであらうと思ふ。

然らば生活の理想は如何に變化して來たのであらうか、又如何に變化しつゝあるのであらうか。一昔を以て云へば宗教に其基礎を有する（と思はれたる）古い人生觀が衰へて、科學を基礎とせる新しい人生觀が盛になりつゝあるのである。換言すれば、人々の靈界に對する興味が衰へて、物質界に對する興味が盛になりつゝあるのである。基督教が初めて世に傳へられた時には、人々が人生の旅路に疲れて、各々重荷を負へるやうな有樣に在つたのである。猶太教も希臘哲學も人生の問題を解くことが出來ぬ、從て其勢力を失墜しても はや行きつまりになつて居つたのである。其處へ基督教が來て、天國の福音を說いて、心を地上より取りて天に向けよと教へた。此世界は罪惡と虛僞とに滿てる世界である、眞正の平安と幸福とは唯天に於て得らるべきものであると說いた。基督教は印度宗教や新プラトーン派の哲學のやうに、全く肉身の自然的生活を離れて、肉身の染汚を脫したる純乎たる心靈生活を送るべしと說く禁欲的出世間的宗教ではない。寧ろ心を變へ新なる人となりて此世を革新すべしと說く現世的宗教である。然るに時を經るに從て基督教の解脫的方面は漸次高調せられ、現世の有漏缺陷を感ずる度が漸次切になつて、著しく禁欲的出世間的傾向を帶ぶるやうに教會の中に發達したのであるが、此傾向は年を經るに從て益々甚しく、中世に至りては現世を以て單に來世に達する準備の場所となし、此世と此世の物とを呪ひ、人各々地に在ては自ら賓旅なり寄寓者なりと云つたのである。

此思想は久しく人心を支配して居つた。第十六世紀の宗教改革は多くの點に於て中世の思想に大なる打擊を與へたけれども、超世間的超現世的の理想は尙久しく大なる勢力を有し、近代に至るまで『救』といへば死後神の刑罰を免かれて永遠の祝福を受くること『天國』と云へば死後靈魂の入るべき樂しき國のやうに解せられて居つた。少くとも教會の基督教は斯く之を說明して居つたので、宗教の現世を輕じ未來を重ずるものであるとは一般の人々の考へて居つた處である。

然るに現世に對する近代人の考は非常に變化して來た。今日の人はもはや現世を敵視せぬ。又之を輕視することも出來ぬ。否、今日は現世に對する興味が非常に廣く且深くなつて來た。第十九世紀に於ける科學進步の結果は自然の制服利用となつて、世界の面目と民情とが一新した。今日では人生の快樂幸福が著しく増

加したので此世界は嫌忌すべき世界ではなくして、寧ろ愛すべき世界となつたから此の世界を呪ひ之を厭離せよといふが如きは現代人に取つては全く無意義の勸告である。第十九紀の自然詩人ウオルヅウオルスは自然と人間とに於て神を見た。彼は實に現代の預言者である。現代人は彼と共に自然世界に神を見、人間の生活——其日常の生活、其德行、其快樂——に眞善美を認むるので、此世界は神の敵ではなく神の顯現であると信じて居るのである。且現代の人心は現實を重ずるので、不確な未來世の信仰や茫漠たる想像に滿足することは出來ぬ。其處で生活の理想を未來世に置き、現實の世界を厭離するといふやうなことは出來るものでない。去れば中世的の臭味を帶びて居る理想が漸次衰へて來るといふのは自然の勢で、毫も怪むに足らぬのである。

大なる時代の影

文學士　内ケ崎作三郎

吾人の觀過することの出來ぬは何れの國に於ても既に大なる組織と系統とをとれる宗教及び道德の不振である。露西亞に於ける希臘教會、伊、佛、西、葡等のラテン諸國民間に於ける天主公教會、英國に於ける聖公會、蘇國に於ける長老教會のごとき程度の差異こそあれ多少の動搖を感ぜざるはない。東洋諸國に於ても從來の國民道德と舊國道德が次第に勢力を失墜せんとする傾向は既に識者の承認する所である。佛教にせよ、儒教にせよ、乃至傳道日猶淺き基督教の或部分にせよ、今や同一なる運命の神に呪はれてゐると斷じても過言ではあるまい。欧米の宗教界の大勢は何れの方面に向ひつゝあるか、日本の國民道德の動搖はその影響を如何なる程度に止むべきか。是れ最も意義あり、又內容ある研究問題である。

成立宗教や化石せる國民道德の衰微は當然のことである。成立宗教が腐敗分子と時代後れの思想を固守する時、頑固なる學者が既に生命を失ひつゝある國民道德一天張りにて新時代の進步的民族を律せんとする時、擧世滔々として懷疑の深淵に沈むも止むをえぬことである。宗教もし進化せずんば生命なきものである。國民道德にして進化せずんば、その國民は低能兒の集合に外ならぬのである。吾人は清新にして生命に充てる宗教の現はれつゝあることを信ず、吾人は澎湃たる新國民的自覺が吾等の胸中に波を擧げつゝあるを信ず。(六合雜誌)

死線を超えたる生の宗教

小山鼎浦

あはれナザレの耶蘇はそも如何なる人なれば、此世の生死を超越したる靈的生命を體現して、今に至るまで存らへ給ふか。然り、耶蘇の人格は、久遠眞實の基督として、今も吾等が前に生く。彼が此世に齎せる神の國の福音は、靈的生命の絕對價値を根本精神とし、又その肉的顯現を窮竟理想とす。彼は時として希臘人の如く現實の生其者を悅樂するが如くなりき。彼は又時として釋尊の如く、一切の欲望を否定し終れるが如くなりき。果してその孰れをか彼の眞相なりとすべきげに彼は孰れにもあらず。彼は生死を超越したる久遠の道を步めるなりき。さらば彼は苦樂を絕し有無を絕したる所謂中道の行者なりしか。思ふに釋尊の中道は單なる觀照にはあらざれど、猶ほ此世を遠離したる彼岸の一路なるが如かりき。而かも耶蘇の步める道は、彼岸を此世に齎したる、然り生死を超越すと謂ふよりは、寧ろ生死を一貫し苦樂を脫離すと謂ふよりは、寧ろ苦樂を支配しつゝ久遠の生命を發展し行く創造の一路にてありき。

釋尊が涅槃の中に於て鮮かに觸れ得たる不滅の生命を、耶蘇は身證體現して長へに世界の光となしぬ。生の宗教は、耶蘇の精神に觸れて、始めて不滅の眼目を得べく、死の宗教は、耶蘇の人格を俟ちて、始めてその眞髓を發揮し來るべし。予は信ず希臘主義を活かしむる者は耶蘇の福音なりと。予は信ず、佛陀の宗教を活かしむる者は亦耶蘇の福音なりと。予は信ず、耶蘇の福音こそは、最勝菩提、無上正覺、然り、一切宗教の眞髓にして且つ奧義なることを。山上の說教に曰く、我れ律法と預言者とを廢つるが爲めに來れりと思ふ勿れ、我れ來りて之を廢つるに非ず、成就せんが爲めなりと。玆に所謂律法と預言者とはモーセとエレミヤとイザヤの夫れのみを指すにはあらず。耶蘇は世界人文の最高山顚に立ちて、今しも此偉大なる宣言を發し給ふもの也。然りホメールの詩とプラトーンの哲學とを成就する者も亦耶蘇也、吠陀の思想と釋尊の福音とを成就する者も亦耶蘇也、實に誠に予は今世界の民に告げむ、一天四海皆妙法に歸す。その妙法は即ち耶蘇の福音是れ也。(新人)

1－764

○婦人問題

ノラとマグダ

文學士　樋口秀雄

坪内博士の率ゐる文藝協會の公演に於てイプセンの傑作「ノラ」を演じた時に、予は特に興味を以てその看客たる日本の紳士及び婦人の之に對する感情に注意した。藝術特に文藝にたづさはる一派の人の外には男子側に於ては家庭に於ける婦人の地位やその屈從に對する婦人の煩悶不平に多少の同情を寄せて、此劇の主人公に興味を感じた人がないでもなかつたが、大多數の評は此の如き無謀なお轉婆が出て來ては夫たるものは災難であるといふ樣な意見であつたらしい。若し此劇に興味を感じたとしても、それは一種の好奇心を以て、空想的な古風の小說に對すると同樣の感興を樂んだに過ぎぬものが多かつたのである。婦人の側に於ても、ハイカラ式の今風の若い婦人は、別しては新文藝の感化をうけたらしいもの丶間には、ノラに寓せられ深刻な現代思潮や婦人問題に對する自意識のあるかないかは別として、ノラに對して同情を寄せ感興を惹いたものもあつた樣であるが、その少數の外は殆んど皆此劇の意味などは了解せぬ人々のみであつた。甚だしきは予までなしたる中に、夫が體面を重んずる心から出た一時の態度に無理はあつても、終には枉げて慰撫するにも拘はらず心づよくそを振りすてたのは恐らく他に情夫でもあつて、この出來事をキツカケに夫を振り捨たのであらうと評する婦人さへあつた。

一篇の戲曲ノラの中には新舊思想の衝突、舊道德と新道德、家庭の觀念の根本的變遷などが寓せられて居て、自己といふ強い意識、その獨立自由の念、男女平等の思想、此自由なる思想と自覺との檢束せる家庭とか因襲的道德とかいふものに對する婦人の反抗など、凡て現在の家庭及び夫婦關係を嘲笑する現代思想が示されてゐる。

協會は這回さらにズーデルマンの『ハーマー』(故郷)を公演した。「故郷」に於てもその女主人公マグダを通じてノラに現はれたのと同樣の思想が現はれて居る。此曲に就ては家族的道德の狹きに失すること、その個人に負はする負擔の過重、強い我慢の意識などが現はれてゐる、此點にはノラと同樣であるが、此外に貞操や罪惡を超越した、若くは念頭に置かない更に自由な思想であるとか、女子の職業の獨立とその誇りとか、女流藝術家の自由な廣い感情の世界に於ける生活とかゞ示されて居る。之に對して舊思想的道德の代表者たるその父シユワルツエ、及び獻身犧牲の宗教的精神の權化とも見るべき牧師ヘフダーリンクを對照せしめて、こゝに新舊思想の衝突を描いてゐる。こゝに注意すべきはノラが惜げもなく愛兒を捨てたと異て、マグダはあくまでその子供の愛を捨てかれた女であるといふ一事である。そしてマグダに對する我國の看客、特に婦人の理解及び同情がノラに對するより著しく見られたのも實に此點にある樣に見える。

ノラもマグダも共に社會である、成程廣く見れば思想問題を寓したるものに相違ない、が特に著しい點は婦人に關する點である。ノラの如きは西歐にも覺醒せんとする婦人の經典とさへ見做されてゐる。此二曲に對する邦人、特に婦人の感想に依つて見れば、我國に於ては未だ婦人の覺醒は少いやうである。婦人問題は餘り起りさうにもない。然しながら東西思想の接觸せる今日早晩此思想はその餘波を我に及ぼさずには居られない。否現に「煤煙」の女主人公某女の如き婦人を見たではないか、某女史の如く、男子私通罪を主張する一派があるではないか。(新日本)

○處世

戰鬪のみ

文學博士　幸田露伴

私は思つた事は何でも當つて見る。巧拙を言へば際限のない話で、青年が世に處し事を爲さうとするには決してそんな事を顧慮して居る必要はない。其爲に或は七轉八倒する事もあらう。岩に突き當つてお出額を傷ける事もあらう。が倒れたら起き上る。行き詰つたら飛び越える。斯うして愈々精が盡き、根が無くなつたら其處で死ぬ迄の事だ。進めるだけ進み、戰へるだけ戰つて、それで斃れるのならいゝではないか。古來の英雄偉人皆さうであつた。否、彼等は千轉萬倒の苦しみを經て來た。枯骨を以て地上を蔽ひ盡した時が即ち人類が地上を征服した時である。白骨を以て海底を埋めた時が即ち人類が海を征服した時である。最近に於ては人類は既に空中に向つて戰鬪を開始した。斯く飽迄も戰ひ進むのが人類の約束である。宿命である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

勿論我々の祖先が幾百千萬年の間、生き代り死に代り血を流し骨を晒して苦鬪して來たお蔭で、今では割合に樂に世を渡れ、而も比較的多くの効果を收め得べき道は出來て居る。所謂處世の巧拙はよく此道を出るか否かにあるが、翻つて考へると元來世に道なる者が最初からある者でない。一人の歩いた跡が一人の道、十人が歩いた跡が十人の道、此前人の足跡を追ふて進めば樂であるが、然しこんな手渡の連中ばかりでは人類社會は進歩しない。難を避けて易に就くのが人情であるから何でも前人の足跡を追ふなと強ゆには無理かも知らぬが、殊更に巧拙難易を問はないでも、日の高きに就き、水の低きに流るゝ如く、自然に自己の取るべき方向は定まり行くべき道は分るものであるから、只之に向つて猛進すればよいと思ふ、そこに前人未到の地がある。

世に慣れよ

山路愛山

樹に攀る奴を見てゐると、初めは怖いとおもふが、自分が登つて見て登りつけると何でもない。それと同じで、處世の方針は要するに世に慣れるにある。勇とか忍耐とか云ふが、そんなものはヂツト座つて居ては駄目だ、思ふ畑があつたらそこへ飛び込んでやつてゐる其間に自然とコツを覺えるものである。政治家などぺら〳〵喋舌つて大變偉いやうに見えるが、之も彼等が長く自分の畑、即ち政治界に慣れたせいである。軍人でも、技術家も、文士でも、皆なさうだ。其畑で長くやつて居る中には自然と此のコツを覺える。此のコツたるや覺えてしまへば一寸忘られない。また嵌つて來る。此の嵌つて來た奴が本當の人才で、所謂天下の道具である。下手は又下手なりに固まつて來る。馬鹿は馬鹿なりにコツを得る。して、勇氣も、修練も、頓才も、其道に慣れるといふ所から出て來るのである。

一體人間は自分一人では何にも出來るものでない。人間の思想とか心とか云ふものは浪のやうなものだ。水は靜かだが上から風が吹くので浪が起る。水が起したのでなくて風が起したのである。人間は種々な物に取卷かれて居る。人間の活動や思想は此の外部の刺戟に依つて起るのである。其時は己れ一人でやつた積りであるが、後で考へて見ると時代の潮流が持つて行つたのだ。つまり世の中は大きな流れで、其中に自分がアチコチ動いて居るのだ。勿論そこには銘々自分々々の世界がある。我々のやうな生活を役人などがやつて見給へ、一日もやれば心配で堪らない。所が此方は浪人をしつけて居るから、道を覺えて居る。是が物慣れるといふ事である。物慣れゝば世の中はどうやら斯うやら暮せるものだ。

然し、此のコツにもいろ〳〵ある。何時までもいゝ氣になつて居ると、もつと面白いコツを覺えて居る奴が出て來てそれを壓倒してしまう。だから始終工夫をしなければならぬ。さうしないと小さなコツを得て大きなコツを失つてしまふ。慣れるとは決していゝ氣になる事でない。コツとは決して定不變のものでないのである。

正直にして精一杯にやれ

内務次官　床次竹二郎

理屈を並べたら限りがなからうし、また、斯ういふ場合に際會したら斯樣にせいと云ふ樣な具體的の問題は、多くの經驗を積み、世故に長けた老人から聞く可きであつて、吾輩の如き若い者の考では、却つて世間の青年をして道を誤らしめる恐があるから止めて、たゞ「正直にして精一杯にやれ」とだけ云つて置かう。是が吾輩自身の處世方針であつて、且つ人に話し得るものゝすべてゞある。

自己に最適する事

文學士　大町桂月

能く自己を知り、其の自己に最も適する方面に向つて、正直に且つ熱心に努むべし。而して其の間、目前の利害得失に拘泥する勿れ。遠大の志望を抱いて奮進せよ。

進んで善事を爲す事

貴族院議員　江原素六

世の中には、惡い事をしない人は澤山あるが、日に日に自分の德を進めようとして居る人は少い。即ち消極的に道德の命令に從つて居る人は多いが、進んで善事を爲す人は少い。それは彼等の道德の根柢に宗教といふものがないからだと思ふ。此意味に於て私は積極的道德家でありたい、即ち進んで日に〳〵善事を爲したい。それが自分の意義ある生活だと信じてゐる。元來自分は貧賤に生れ、兩親など一生一字も書いた事がなかつた。本といふものは伊勢から配つて來る暦一冊であつた。さうした間に育つた私はどうして、暮さう

の斯うして暮さうのと考へた事はなかつた。何等の野心も抱かなかつた。する中に、丁度維新前芝の日吉町に志士の西洋人殺しがあつた。すると横濱に居る外國人は皆斬り殺されるといふやうな噂が立つた。それで外國人は皆用心の爲に番人を置く事になつたので、自分もそれに雇はれた。自分は只周圍の事情に應じて善しと思ふ事をやつたのである。萬事その積りで、水の沁みるやうにぽつ〳〵今日までやつて來た。即ち私は自分の徳を進めようといふ考へでやつて來た。それが私の處世の方針とも見られる。(以上實業之世界)

◎婦人の修養

女は道德を作る

鳩山春子

現今も過度時代ですけれど、私の時代も幕末から御維新の過度時代で、その頃の英雄豪傑と云はれた人は概は妾を蓄へ、或は酒樓に上つて盛に鯨飲馬食したものでございます。

西洋では一夫一婦ですけれど、東洋では蓄妾することを、何とも思はない悪い習慣がありまして、袁世凱の如きは、二十五人も妾があると云ふことでございます。

一體人間は、兎角自分の弱點に理窟を付けたがる悪い癖があります。トルストイも、「醜業婦は醜業婦で、人をだます程勝れた事はないと思ひ、又探偵は探偵で、人の秘密を發くを以て名譽とし、殺人犯人は殺人犯人で多く人を殺したのを以て功名としてゐる」と云ひました。尤も自分の爲てゐる事を悪いと思つた日には、良心の叱責に苦しみ一日も安穩に暮せるものではありませんから、斯様に良心を鈍らして、自分の弱點に理窟を付けるのでございますが、男子が妾を蓄へたり、酒食に耽つたりいたしますのは、その子供にとつても非常に悪い感化を及ぼすものですから、どうか、十目の見る處、十指の指す處を公平に判斷してもらひたい即ち善き後繼者を作り、以て將來の國民の安寧幸福を基礎として判斷して頂きたいものでございます。

現今、所謂人の父となつてゐる人達の若かつた時代と、現今の若い者とを比較して見ますと、今の若い者の方が品行が佳いと、多くの人が云はれます。實際息子に嫁を貰ひましても、誠に圓滿に治つて行きます。先頃岩下さんが、是れは時代の罪であつたのだと云はれましたが、昔の若い人に比べますと、近頃の若い者は、確に品行が進みました事は喜ばしい事でございます。

諺に、「男は法律を作り、女は道德を作る」と申します通り、その子の道德如何は、全く母親一つにあることですから、世の多くの母親たるものが、悉く心を一致して、自分の子供を理想的の大人物に育てたいと思ひましたならば、茲百年を出でずして、日本は全く一變するでございませう。(婦女界)

余が見たる女性の半面

東京音樂學校教授　吉丸一昌

嘗て地方の某女學校の校長であつた人の話を聞いたことがある。校長が轉任の命を受けてその學校を去る時、數百の女生徒は町離れの渡場まで見送つて來て、謂ゆる紅涙潸々、悉く涙を流して哀別の聲を揚げた。その時、校長の思ふには、長年の間、多少心を入れて教育した苦勞も、この切實な愛慕の情をまのあたり見て慰められる。これが教育家の樂みであると嬉しく思つて、自分も何となく別れづらくあつた。三月ばかり經つと、新年となつたから、定めし賀狀も澤山來ることであらうと心待ちに待つて居たが、豈に圖らんや三日間の新年に届いたものは、何々學校何年生惣代といふ一枚の端書の「謹賀新年」のみであつた。あの時、惜別の涙と見たのは、單に外聞の爲めに流した悲しみの涙であつたのである。おつきあひに泣いた義理一遍の涙であつたのである。三月經つてしまへば昔の先生などは忘れて思ひ出しはしないのと見えると云つて校長が憤慨したといふことを聞いた事がある。

これは決してその校長が薄德であつた譯でもなければ、人望がなかつたといふ譯でもない。由來女性の感情は起り易い醒め易いもので、女の涙は夕立雨よりも晴れ易いものである。

女同志の心中といふ事が、一二年前の新聞に見えた。しかし、男同志の心中といふことはまだ聞いた事がない。心中が熱情の解決であり、愛情の表現であると見れば女の情愛が濃厚で、「男の方は淡泊であるもの」やうに思はれるが、抑もその心中なるものが果して熱情の捨場所であるが結果であるかないが問題である。自分は決して普通に解釋してゐない。語物讀物で說明してゐる心中なるものはたゞ作者の理想に過ぎないもので、文學者の想像に過ぎないもので、つまり筆の先で

1-766

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

頭の中で美化した産物に過ぎないものと自分は解釋して居る。あの女同志の心中でも、あれは決して人の不幸に同情して、他の死に殉じたものでもないし、百年の命を犧牲に供したものではない、相憎同じ事情の薄倖者が、相憎二人遭遇した奇遇した結果、お互に亡靈の伽を欲しがるといふやうに、たゞお互に道伴れにした丈で、腹の中は陋劣な卑怯な心持から起つた結果に過ぎないのであると信ずる。

此判斷は餘り殘酷だといふかも知らないが、女郎の心中が、いとしい男の爲めに同情したといふ高潔な動機でない以上は、女はどれも同じ心持から來た成行きの心中で、學問の有無、教育の有無は、決して同じ心中のスケッチには着色しない。新聞で見る女郎の心中の原因が、毎も常人が既に死ぬる相手が欲しいほどの苦しい境遇に陷つて居る事情のものであつて、實の處、相手は必しもその男に限る譯でもない。外の男が差し替つて來ても、自分の心中には故障はないといふのと同じことである。試に考へて見ると、若しその時、何か心機一轉する出來事があつて、しかも幸福な境遇などに移り變りでもすると、忽ち生れ變つたやうな晴々しい人間になつてしまうのに極つて居る、女學校に居た時は、姉妹のやうに仲善くして、皮かなければ二人が一人になるやうな間柄でも、學校を出て分れ〲になつてしまへば、全く路傍の人となつてしまふのは、現に若き女に見る普通の狀態ではあるまいか。(婦女界)

○風粒

獨人の見た日本

醫學士　高田畊安

神田駿河臺高田病院長醫學士高田畊安氏は約十ヶ月間の歐洲巡遊を終へて廿九日夕歸京せり其談に曰く

日本人で獨逸で名の高い人は矢張北里博士だ夫から六百六號で秦君も少し知られて居る日本の物で名高いのは何しろ藝者に越す者はないさ洲崎が燒けたと云ふ電報を見て「貴君藝者街が燒けましたつてね吉原が、どうも御氣の毒な事です」僕に悔を云つた人さへある遊廓と云つたら何處でも吉原と思つて居るのも可笑しいが其吉原を又名所かの樣に思つて居るので可笑しくもあり又大に恥かしい氣持もした國に居て幾千一等國だと威張つて居たつて藝者が一番有名では我々一音もないでは無いか。

併し日本の新聞にあつた事と云ふと獨逸では非常に注意して居る何事に拘はらず日本の新聞に然うあつたと云ふ樣な事は殆んど毎日新聞紙上に見られる夫から又日本の忠臣藏とかお花さんとか云ふ芝居も行つて居るが其脚色から繪看板迄實に醜惡見るに堪えない樣な物に態々してある樣で我々の眼から見ると全く侮蔑の意味を態々示して居る樣に思はれる去年ドレスデンに開かれた萬國衛生博覽會でさへも列國の風呂の變遷など畫で見せた中に日本の風呂を畫いて一人の女が洗つて居ると其の下の方に又一人の女が洗つて居り又其下にも洗つて居る所が畫いあつて日本の風呂は然云ふ風に垢でドロ〱する樣になるまでも同じ風呂に入ると云ふ意味の說明が附けてあつた凡べて然云ふ風に日本を蔑侮し乍ら日本の事と云ふと新聞などでも特に非常に注意して居る事は大に我々の眼に附いた事である。(報知新聞)

○家庭

夫婦喧嘩の仲裁

文學博士　福來友吉

夫婦喧嘩の仲裁は、如何すれば善いものですか、と言ふと如何にも、事あれかしと、待構へて居る樣にも當りますが、夫婦喧嘩抔とは、一體何處にしても、感心の出來ない事件です、併し事實あるとすれば、默つて見て居る譯には參りません。

假に今、先方から奥樣をお見へになつて「如何も斯うも、私の所の主人は、誠に仕樣が有りません、私が斯うだと言ふに、イヤあゝだ、何んだ」と、先づ自身の不平を、此方へ訴へて係らうとする時、此方では遮二無二、「ナニ全體夫は貴女がお惡い、貴女は一體、御亭主を[illegible]の樣に、心得てお出になる」杯と眞向から、切込んで御覽なさい、先方はムカ〱として、他の云ふ事抔は、耳に這入り相にも無い、夫こそ打毀しの本となり、却つて益々、其の奥樣の不機嫌を高め、興奮した神經の火へ、石油を注ぐ樣なもので、此手では、到底夫婦喧嘩の仲裁は出來ません。

此の時には先づ此方で、先方即ち奥樣の不平を「成程〱」と靜かに、又ゆツくり聞いて上げるに限る。而して假し其の不平が、一時間に渡らうと、二時間に渡らうと、三時間四時間乃至は半日の間續かうと、ナ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

二構ひません。向ふに夫程の不平があれば、此方にも亦負けず劣らず、聞て遣る根氣が有つてこそ、始めて仲裁が、役に立つ譯で有ります。京都に有名な禪僧が有つて、或る學生と問答を初めた、スルと學生が、饒舌る／＼、何時を果しとも分らない位に、述立てるのを禪僧は、逆はずに熟と、耳を澄して居る、而して物の二時間もたツたと思ふ頃、禪僧は靜かに、湯呑を取出してお茶を注ぎ、「嘸疲れたらう、まあ／＼一杯」と言つて、其の湯呑を差出した相で有ります。「何卒、私の言ふ事を聞て被下い」、と云ふお婆様が替く有る「實は是れ／＼……」、と說出されますから、「イヤお婆様、夫は最う、何度も聞きましたよ」「左様であらうが、最う一度、是非聞て被下い」「後生だから」「イヤ眞平です」、と言つて逃出すなら、「まあ／＼」と追蒐られて、「夫ではお茶菓子を奢りませう」、と云ふ條件附で、漸やく談判が纏まる様な場合が、一寸／＼御座います。斯様にも話して見たいものでせうか、少しは辛抱が、出來相なものだ、と端からは思はれますけれど、夫は極冷淡に觀る方の遣方であつて、是れでは親切の仕方とは申されません、其處は此方で辛抱して聞て遣る、聞て遣るのは、則ち救つて遣るのである、と先づ考へ度い。

如何して左様かと言ふに、人間には心がある、其の心が今何か言はうとする、夫を喰留めて、言はすまいするのは誠に無理な遣方です。其處を諦めて寛りますなら、人の話を聞くことは、餘り苦に成りません、現に或る所の奥様が、非常な癇癪持である。若し自分の言ひ度い事を、矢鼻に端から留められたが最後、さあ奥様承知しない、言へない代りに其の鬱憤を、手當り次第投出しては晴らすのが、何日もの癖になつて居ます。又時には二日も三日も、默つた儘で寢ることも有りますけれども、其の鬱憤を晴らしさへすれば、今迄の不機嫌は、何所へ行つた、誰が仕たと言はん許に、ケロトと忘れて居ます。そんな事が有つたらうか、と却つて自分が、不審に思ふ位、打つて變つて優しい人と成るので有ります。

心に思ふ事を、言はずに置く事が、是れ位切ない、と云ふにて知れます通り、又一ツの秘密があつて、夫を唯一人、胸の中に、疊み込んで置くと云ふ事も、誠に苦しいので有ります、是れは外國の例では有りますが、佛國に日頃陽氣な、誠にハキ／＼した婦人が有りました、所が中頃、夫ある身にも係はらず、何か失敗が有つた、夫を如何しても、夫に告げることが出來ません、濟まない／＼、困る／＼、と思ふ許りで是れ丈は何日になつた迚、到底打明ける事が出來ないと覺悟を極めて居る間に、今迄の陽氣な所が、日一日と無くなつて來る。何事にも力のない、ハキ／＼仕ない婦人と成つて來ましたので、自然、人の目にも着き、果は夫からも、怪まれる様になつたので有ります。

仍で一日、其の夫が夫人に對して懇々、問ひ訊しました所が、斯う成つては、最う止むを得ない、深く隱し切つた失敗に就て、殘らず打明けて、其の宥しを乞ひました、スルト夫は、其の事情を酌み、極めて優しく聞いて呉れました爲め、夫人は大層安心しました、夫からと云ふものは、薄紙を剝ぐ様に、日一日と又、以前の様な陽氣な、ハキ／＼とした所の天性が、現はれる様に成つた相です、其の他また／＼、言はうとして、言ふことが出來なかつた爲め、精神に變動を來したり、病氣になつたり抔した、面白い實例が有りますけれど、要するに、苦情の種でも、年寄の愚痴でも、他人の不平でも此方では心を大きくして、出來得る限り、善く聽取つて遣ると云ふ事が、誠に大切で有ります。

梅雨時の衛生

讀賣新聞

水菓子は何れを問はず食後適度に食べるとは消化を助けるから至極好い。けれども病院では食前食後とも別に水菓子を進めてはゐない。人によりては少々多量に食べても別に差閊へのない人もあるが、普通一般には勿論、適度と云ふ事が肝要で、腸胃の弱い人が消化を助けるからと云つて無闇と水菓子を用ゐるのはよくない。其れから何人も水菓子を食べるには消化狀態の好都合な日中がよく、夜分は其量に餘程氣を付ければならぬ。殊に小供などは兎角量を過ごし易いから特に注意を要する。云ふまでもなく凡て水菓子は熟したものを選び昨今漸やく出始めた不熟の梅などは全然、食べぬ様にするがよい。又腸胃病で昨今、最も多いのは腸加太兒で、其原因は寢冷が主だ、暖冷の定まらぬ時には睡眠中に腹部を冷やす恐れがある、寢冷は大人よりも子供が侵され安く、爲めに腸感冒と云ふものを起し遂には腸加太兒になる。其徵候は腹痛下痢であるがながく油斷の出來ぬ病氣で諸種の餘病を招く危險も伴ふ。腸加太兒は是れから梅雨の候にかけて漫性の患者

は再發し、又新たに侵され易いから非常の警戒を要する。寢冷の豫防としては直接、外部と關係のある胸部は左程でもないが腹部からずつと下半身即ち膝頭迄を冷氣に觸れない樣にして寢るがよい。活動性の子供などは能く布團を蹴み脫ぐ恐れがあるから不自由せぬ樣に寢冷の豫防をしなければならぬ。

生活難と衣食住

基督教世界

衣服と食物と住居とのうち何れを第一に節すべきかと云ふことは、生存競争が烈しい今日に於いて、心ある婦人のすぐ頭に浮ぶ問題でありませう。

日本人は節儉と云へばすぐ食物を質素に致しますが今日は腦髓を使ふ時代でありますから、身分不相應でない限り、出來得る丈の範圍で滋養物を食はねば成ません。食物が不良であると、血氣な時代には別段その害も感じませぬが、四十歲以上になれば、著るしく元氣がなくなつて、所謂隱居をしなければならぬ樣なことになりますから、一家の主婦はこの點に充分な注意を拂はなければなりませぬ。

次は住居でありますが、日本人に肺病患者が多いのは、畢竟家屋の構造が惡い上に一般に住居についての觀念が乏しい結果だと申します。

そんなら何う云ふ方法で質素生活をするかと云ふに衣服の節約が一番だと思ひます。地位や名望の高い人が、恰も勞働者のやうな姿をせよ、貴婦人は女中同樣の衣服をつけよと云ふのではありません。その收入と身分に應じ、食住に比較的多額の金を懸るも、衣服だけは差支ない丈節したいと云ふのであります。僅かの月給を得て居る男子が、その一ヶ月の收入以上の洋服をつけ、その妻の外出の衣裝全體には、一ヶ年の收入以上を懸けなければならぬと云ふ有樣であります。私の知つて居る範圍にても三十圓の月給を取る人が、その妻に御召の二枚襲を作つてやらんがために、親子三人が日々粥に鹽を添へて生活して居りました。約八ヶ月經つて豫期の衣裝が出來上りましたが、それより一ヶ月も經たぬ内に今年四歲になる男の兒は營養不足のために床につき、遂に死んで了いました。獨りその兒のみでなく夫婦とも青い顏をしながら醫藥に親むように成りました。

これは極端な例でありますが、これに類する生活は尠しくありませぬ。衣服の奢侈は實に恐るべきものであります。

一言加へて置きたいのは交際費であります。人間は社交的の動物でありますから、人と交るのは好い事でありますが、日本人は外國人のやうな談話的交際を厭ふて、飲食物交際を好む樣であります、人を訪問すれば必ず何かを持參し、持つて行かなければ義理を缺く樣に思ふて居りますが、それは卑屈な事であります。日本人の交際は節する餘裕が充分あると思ひます。

（○育　兒）

育兒の心得

醫學博士　加藤照麿

子供は母乳で育つべきもの

胎兒が母の胎內にある間は、母體から營養を受けるものですが、生れてから後も、母の乳によつて養はれます。つまり子供は、その母親から營養を受けるといふのが原則になつてをります。一體、母親の乳で子供を育てる國では子供の死亡數が少ないが、牛乳で子供を育てるところでは、死亡數が多いといふのをみても、母乳がいかにその子のために有效であるかが解りませう。現に獨逸あたりでは、牛乳營養が盛んなために、百人の子供のうち三十人以上の死亡者があります。

ブンゲ氏の說によると、動物は皆それぞれ違つた乳汁を持つてゐるもので、乳汁のうちにある蛋白質は、生物學上から見ると決して同じものではない、動物によつて皆違つてゐますから、他の動物の乳や他の動物の子を育てるといふことはできません。また母親は、自分の乳を子供に飲ませると、出產後に自分の身體が早く恢復するといふことです。

ボルリンゲル氏の說によると、多くの子供を自分の乳で育てた婦人は、癌腫にかゝることが少ない、殊に、乳癌や子宮癌にかゝることが少ないと申します。少し素人には解りにくい話ですが、最近の免疫學の學說によると、子供は、母親の胎內にゐる時に、母體から一種の抗毒素を受けます。また生れてから後は、母親の乳から抗毒素を受けます。わかり易くお話すれば、母親が一度煩つた病氣は、母親ばかりでなく、子供までも免疫になります。一生といふわけにはまゐりませんが、とにかくある期間は免疫になります。けれども母親の乳を飲まぬ子供は、その幸福を受けることが出來ません。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

1-770

初めて飲む母親の乳

子供が初めて生れた時は、分娩の時の運動や、産湯を使つたりなどする爲に、子供の身體が非常に疲れます。それですから出來る丈け靜にして眠らせるやうにしなければなりません。子供は産湯をつかつてから間もなくスヤ〳〵と眠ります。八時間から十二時間位眠ります。そして眼が覺めて泣き出したら、母親の乳を飲ませます。どの位飲ませたらよいかといふことは、チヨツトむづかしいけれども、どちらかといふと少なすぎる方が間違がありません。子供の乳の呑み方にも上手下手がありますが、母親の乳房にも乳汁の多く出るのと少しゝか出ないとがありますから一概には申されませんが、まづ大匙二杯(三十グラム)ぐらいと思へば間違ありません。

母乳は初めは出ないもの

エッシエリッヒといふ小兒科の大家の經驗によると、子供が生れてから三時間か七時間ぐらゐ經つと、糞便の中に大腸菌といふ細菌があります。その前には黴菌はゐないのです。それは、子供が空氣中から飲み込んだり、産湯を使ふ時に肛門から入つたりするのですが、あまり早く子供に乳を飲ませ始めると、黴菌が盛んに發生して消化を害ひます。エッシエリッヒ氏の考では、初生兒に多い黄胆症も、この黴菌のためではあるまいかといふことです。

初めから子供に乳母をつけると、乳があまり澤山出るものですから、とかく飲み過ぎていけません。母の乳は、分娩後二三日間はあまり出ませんが、この不十分な乳が子供のためには丁度よいのです。しかし、あまり少ない時には、湯冷まし水に白砂糖を少し入れて飲ませても差支ありません。

出産後二三日經つても母乳が十分に出ませんと、家内中が大騷ぎになつて、しまひには醫者までも首を傾け、餘儀なく牛乳を始めるのが普通ですが、これは大間違です。産婦――殊に初産婦の乳は、三四日目頃から出て來るものですから、二三日乳が出ないといつて諦めてしまふのは、少し早まつたことゝいはなければなりません。母乳の出方が少ないといつて牛乳を始めれば、出るべき母乳も出ない樣になつてしまひます。

早く乳を飲ませるは過多し

子供が生れてから早く乳を始めないと體量が増さないといつて、無暗に早く乳を始めたがる人がありますが、これはよくありません。乳を始めるのは、却つて遲すぎる方が胃腸を害はないでよいものです。産婦の乳は、最初二三日は誠に少ないものですが、それだけでよいのです。この少ない乳を飲んでゐれば、それで間違のないやうにできてゐるのです。しかし、子供が啼いて困る時は、前に申した砂糖水を一度に二十グラム(小匙に四五杯)ぐらゐ、一日に四五回飲ませても差支ありません。

乳は一度にどのくらゐ飲ませてよいかといふことは度々聞かれます。これにはいろいろの說もありますけれど、子供が乳房を離すまで飲ませるといふのが一番自然でせう。しかし、二十分以上も飲ませるのは不必要です。飲みはじめは、子供が強く澤山に吸ひますけれども、しまひにはだんだん疲れて來て、初めのやうに勢よく吸はなくなります。一體子供が乳を飲むのは、私どもの考へ以上に骨の折れる仕事なので、子供が乳を飲むところをみてゐると、額に汗をかいてをります。殊に、生れて初めての哺乳はなかなかむづかしいものです。

乳房の空になるまで飲ます

分娩後最初の一週間は、乳の出方がまだ多くありませんから、双方の乳房を交る交る吸はせなければなりませんが、その後は、なるべく一方だけ吸はせる方がよろしい。乳房を空になるまで飲ませるといふことが最も必要です。乳房の中にいつも乳汁がたまつてゐると、しまひには乳が出なくなつてしまひます。それゆゑ、初め右の方を飲ませたらば、空になるまで十分に吸はせて、それから左の方を飲ませます。そして、次に飲ませる時には、左の方を空になるまで乳ませて、それから右の方を乳ませるやうにしなければなりません。

人間の乳は、乳首に近いところにあるのは薄くて、奥の方ほど濃くなつてをりますから、左右の乳房を半分づゝ乳ませると、いつでも薄い乳ばかり飲むことになりますから、注意しなければなりません。もし子供が弱いとか病氣であるとかいふために、乳が十分に飲みきれなければ、他の丈夫な子供に吸はせて乳房を空にしなければなりません。さういふ時に、大人に吸つて貰つてもよからうといふ人がありますが、大人にはうまく吸へません。といふのは、乳を吸ふのは、舌を捲いて吸ふばかりでなく、齦齒で乳首を輕く嚙んで乳を押出すのですから、大人には齒もあるし吸ひ方もうまくゆきません。(婦人世界)

○臺所

臺所改良の意見

東京女子高等師範學校教授　宮川壽美子

臺所の位置は、日當りのよい明るいところを選ばなければなりませんが、それには、何處の臺所にもある天窓は、甚だよい思ひつきと思ひます。しかし、できるならば、天窓には、板戸とガラス戸と二重につけておきたいと思ひます。夜は二枚とも締めなければなりませんが、雨降の時にはガラス戸だけ締めておくと、明るくもあり雨を防ぐこともできます。在來の臺所は梁があらはにみえますが、これは汚いばかりでなく、蛛や埃がつき易いから、なるべく天井を張ることにしたいものです。

臺所では、立つてゐて働けるやうに設備をしたいものです。立つてゐて仕事をすれば、場所をとらないばかりでなく、ものを上げ下しするにも、出し入れするにも、都合がよろしい。今までのやうに座つたり蹲んだりして仕事をするのでは、大きな人が、一人ゐると非常に窮屈で、自然働き難うございます。

流しは、たたきか煉瓦で作りたいものです。七輪はなるべく場所をとらぬやうに隅の方に寄せておく方が便利です。今までは、流しを隅に押附けておいたので一人か二人しか使へませんでしたが、これは是非ともまん中において、幾人でも四方から使へるやうにしたいものです。流しは、煉瓦かたたきか人造石で作つておけば永くもちますが、木ではぢきに腐つて不潔になります。私があるところでみました流しは、瀬戸ひき煉瓦でできてゐましたが、かうすれば掃除も行届き、清潔でよいと思ひます。

今までの臺所には、竈や七輪のそばに揚板があつてその下に薪や炭などを入れてありますが、火でも跳れると危險ですから、そんなものは外へ入れておく方がよいと思ひます。

食器の入れ場所や鼠入らずなどは、あまり低くないところの方がよいと思ひます。あるお家では、上に鼠入らずをおき、その下に棚を作つて、一番下が爼臺になつてゐましたが、これは何れも上から吊つてあるのでもあり便利でもあると思ひました。その爼臺には小さい抽斗をつけてありますから、小道具類を入れておくこともできます。棚は深くない方がよいと思ひます奥行が三尺もあると、奥の方が暗くて掃除も行届きません。これは、一尺五寸ぐらゐの深さにして、會席膳ぐらゐが入るやうにすればよいと思ひます。

鼠入らずも、戸棚も、なるべく目の細かい網張の戸を締めておきたいものです。さうすれば、空氣の流通もよし、夏などは殊に都合がよろしい。

臺所は、東南向きならば冬は暖かく夏は涼しくて申分ありませんが、さうできなければ西向がよいでせう。そして、流しは雜物を洗ふところと、茶碗などを洗ふところと、二つに仕切つておきたいと思ひます。洗ひ物のことは前にもお話したことがありますが、一番先に茶碗などを洗ひ、次に皿などを洗ひ、一番しまひに油氣のものや匂ひのついたものを洗うやうにすれば、一杯の湯で澤山のものを洗ふことができますから、便利でもあり心持がようございます。(婦人世界)

梅雨期の臺所

石原東京市技師談

臺所の衛生は平常でも注意すべき事であるが、梅雨にかゝつた今日此頃は殊に清潔にして置かねばならぬ夫れには先づ臺所を明るい處へ造るか、左もなければ窓を明けるなり障子の紙の部分を廣くするなりして、成る可く太陽の光線が澤山這入るやうにする。斯うすれば臺所が始終清潔に保てるばかりでなく、光線の爲めに種々の黴菌が發生するのを防ぐ事が出來る。食物は原料でも煮物でも凡て一つ處へ納め、彼方にも此方にも散らして置かぬが好い。臺所に食物が散らかつて居るのは、其家が鼠の棲家なる原因で、延いてはペストの流行にも關係を及ぼすのである。又た塵を棄てる箱は、之れも鼠を防ぐ爲めに必らず蓋をして置くのが好い。斯くすれば鼠は自然に其の家から逃げ出して了ふ。臺所へ一寸醤油や煮物の汁などを溢した場合には夏の眞中などならば一寸拭つて置いても濟む事だが、此頃は特に注意をして綺麗に拭取られねばならぬ。若し拭き樣が粗末であると黴菌を發生するし、又黴菌の養成をする原因になる。食物を調理する時は上衣を着るが好い。之は白に限らぬが成る可く汚れの目立つ白いのが宜敷い。食物は煮て了へば黴菌の憂ひはないもので、煮た物を扱ふのには必ず箸で取扱ひ、且つ手を其都度洗つて置けば安全である。箸箱は一面から見れば矢張黴菌の養成であるから、此頃の季節には出來る事ならば、箸は使用後タワシで洗つてから納めるやうにしたいものである。流し場は水を吸收しないコンクリ

ートか、金屬の板で拵へる方が好いと思ふ。一般の家庭では板の流し場は度々竹タワシで綺麗に洗ひ流すのが好い。拭巾は成る可く其都度洗ひ干すのが好い、之は家庭にもよるが、少しの注意で其都度清潔なるものを用ゐる事が出來る。（國民新聞）

○彙報

淺草魔窟の女の健康診斷

本紙が全市暗黑面研究の第一着として去三月末より四月中旬に渉りて連載せる恐るべき害毒を流布しつゝある魔窟の處分につき其後警視廳にては愼重なる調査ありし結果四月下旬廳令第八號を改正し市内各銘酒店新聞、縱覽所、娛樂場等に對し此の際更めて營業許可願ひを差出すべき旨を命じ一方各警察にては醜業を營む艶寃等の檢擧に努め尙淺草區内象潟、馬道兩署にては數日前更に管内醜業者に檢黴勵行の令を發したること は去四日の紙上に逸早く報じ置きたり馬道署の所轄たる淺草公園五區六區の寃窟業者等は各自積立金をなし醫師を委囑して自ら檢黴の方法を立つべしと申出で許され象潟署の所轄たる千東町方面の營業者等は昨日より每月三回宛同所富士横町の假檢黴所にて警視廳より出張の助川、安部象潟署の蒲生、最上の四警察醫の出張を乞ひ檢黴を受けたるが法律上强制檢黴を行ひ得るは淫賣前科者にて常習犯と認めらるゝ者に限りあることゝて前科も無き雇女全部の檢黴は不法なり人權蹂躙なりなど騷ぎ立てしも元々檢黴の必要ある事位は彼等自身も百も承知なれば結局檢黴を受くる事となりたり。

艶魔は悉く傳染病者

▲戰慄すべき健康診斷の結果
▲之でも淺草の魔窟へ行くか

檢黴が今回愈々其筋の手にて實行され、先づ淺草區内象潟署及び馬道署が斷斷乎として遂行せしむる事となりたるは既報の如し。

▲受診者二百八名　六日象潟署は同區馬道七丁目富士神社裏手の貸席を一時假檢黴所として當時先づ二百八名の賣春婦の檢黴を行ふ、事頗る醜陋、士人の口にするだも恥づることなれど公衆衞生上重大なる問題なれば、紙面を汚すを咎むる勿れ、此第一日の檢黴は花屋敷裏手千束町に巢を構ふる一部にして午前百名午後百八名の二部に別ち午前九時より既記四名の警察醫が大車輪の繁忙を極めたり門前には警官嚴然と見張り關係者以外の出入を許さず頗る嚴正に行はれたり

▲患者百五十四名　其結果は如何、果然彼等艶寃は一切全部を擧て世にも畏るべき花柳病の媒介者なりき傳播者なりき午前百名中七十一名、午後百八名中八十三名は純然たる梅毒下疳淋疾等の傳染的花柳病患者と診斷せられぬ殊に其病勢の獰惡執拗なる第三期性の患者多かりしには警察醫諸氏が驚嘆し戰慄したるも尤もなり。

▲他は肺病皮膚病　白粉燕脂小暗き紅燈の裡に彼等艶寃が一笑一顰に軟化さるゝ幾多世の男子は如上の結果を如何に思惟するか而も二百八名中健康者と稱せらるゝ五十四名は單に花柳病患者ならずと云ふに止まり恐るべき肺結核患者あり汚穢なる皮膚病者ありトラホーム病者あり煎じ詰むれば一切傳染病患者なりと云ふに至つては實に世人が想像せるより遙に以上の危險物なり斯く事實上證明されし危險地に尙足を入るゝ痴漢ありや同所の健康診斷は七日も續行せり而して傳染病者の多きこと亦六日に如かざるべきこと想像に難からず。

脂粉に包む腐肉團

▲淺草檢黴の第二日

淺草寃窟の艶寃の健康診斷第二日の七日は午前十時まで同區千東町二丁目俚俗猿之助横町の艶寃百五十二名の診斷ありしが最も重患なる者十七名之に次ぐ者四十三名初期の者五十六名合計百十六名即ち八割弱は花柳病患者にて殘餘卅六名中六名は肺結核、他の卅名に皮膚病眼病等あること前日の如し而して彼等は夫々醫師に就いて治療すべき旨を諭されて歸宅し、夕刻よりは「之で檢査も濟んだ」と平氣な顏して盛に客を呼び込み居たり。（以上東京每日新聞）

女中の滿洲輸出

▲民政長官の注意　先つ頃救世軍大佐山室軍平氏が關東州に於る救世軍事業の狀況を視察の爲大連に赴きたる折柄民政長官白仁武氏は山室大佐に向つて救世軍の手にて内地より女中を輸出することは出來ざるかと熱心に相談する所ありたるに依り大佐は直に之を實行するの意を決し輸出の方法等に就ても下記の如き立案既に出來したるを以て近々之に着手するの手筈を

定めたり。

▲女中の拂底　元來新殖民地に於ては常に婦人移住者の尠きが爲に種々の惡弊を誘致するの常例なるが我關東州に於ても其例に漏れず婦女誘拐の如き如何にするも一掃すること能はず婦人は恰も物品の如く轉々賣買せられて悲慘の生涯に沈淪する者も尠からず且つ淫賣の惡風盛んに行はれて衞生にも惡結果を生ずるのみならず殖民地に於ける中流以上の人士が最も缺乏と不便を感じつゝあるは女中の極めて拂底せるの一事にして從來救世軍の婦人ホームに收容せる婦人を以て一部の需要には應じつゝありしも到底共給不足にして需要者の十分の一をも滿足せしむること能はざるが故に救世軍に於ては從來の婦人ホームの事業を擴張し消極的に誘拐を防遏すると同時に積極的に自から進んで未だ誘拐者の毒手に罹らざる無垢の女を輸送し先づ同ホームに於て半ケ月乃至一ケ月間主人に對するの道其他女中の心得べき事を教へ然る後女中奉公に出し二三年間無事に奉公を了りたる者は其の希望によりて相當の所に嫁せしめ以て殖民地の穩健なる發達に資せんとするに在りて白仁民政長官は云ふまでもなく民政署員一同贊成なれば女中の輸送募集等に就ても種々の便宜を與ふるの約あり且同地方は女中の給金高くして最低六圓より十圓位(食料主人持)迄なれば應募者も必ず尠からざるべしとなり。

▲輸送の方法　女中募集の區域は中國の西部及び九州方面の最も大連に近き方面に於いてし民政長官よりは右地方各郡に宛てたる救世軍の信賴すべき旨を認めたる書狀を同軍の募集者に添附する筈なりさて募集したる女中は下關なる旅館金波樓の主人に託し同旅館が隈て旅客を取扱ひつゝある大阪商船會社の船にて低廉の船賃にて輸送し船賃なきものは之を貸與して女中奉公の後之を償還せしむべしと因に金波樓の主人は三十年來の基督教信者にして其の家內には平素祈禱をなす爲に特に一室を設け毎日一定の時間には必ず其室に入りて神に祈禱するの例にて此の時には決して何人にも面會せずと云ふ程の熱心なる信者なりと。(やまと新聞)

日本人一年間の煙草

▲卷煙草の量　刻煙草は別として、一年間に煙となる卷煙草丈けの數量は、五十三億千七百三十萬餘本千や萬までは想像が出來るが、何十億と云ふ數字になれば、一寸その量を想像することが出來兼ねますので試みに此の卷煙草の分量を計算して見ますると、長短を平均して一本の長さを二寸五分と假定すれば、五十三億の延長は實に十三億二千九百餘萬尺、即ち之を一本づゝ繼ぎ合すれば、二十四萬九千餘哩の長さとなります。日本の鐵道は輕便鐵道まで合せて、五千哩が少し出てゐる位でありますから、一年間に費さるゝ卷煙草を日本全國の鐵道に並べて見るならば、幅一尺二寸五分の卷煙草の帶を津々浦々の鐵道に至るまで敷きつめることが出來ます。若し之を新橋から下關まで七百哩の鐵道に敷いて見るならば、約九尺幅の煙草が一面に敷詰められる譯であります。豈驚くべき數量ではありませんか。而してこの喫煙家が全國に何人あるかは之を調査する道がありませんが、兎に角寄つて集つて毎日々々欠伸の合間々々に煙にする卷煙草が、一年に積れば此の驚くべき數量となるのであります。

▲全國一年間の煙草代　此の驚くべき煙草に費す金は何の位のものかと云ふ。

內地口附卷煙草	千七百八十七萬七千五百三十一圓
同兩切卷煙草	四百十萬五千四百三十七圓
同葉卷煙草	三萬七千百二十五圓
同刻煙草	五千百十九萬九十九百七圓
計金七千三百二十二萬二圓	
外國製紙卷煙草	二十四萬千九百九十七圓
同葉卷煙草	十五萬三千六百[illegible]圓
同刻煙草	四萬七千四百九十三圓
同板煙草	千五百九十二圓
同粉煙草	七百十九圓
計金四十四萬五千四百四圓	
合計金七千三百六十六萬五千四百六圓	

是亦驚くべき金額であります、即ち日本全國五千萬の人々に割當れば、男女の別なく子供も赤ん坊も煙草を喫ふものと假定して、一人前の煙草代が一圓四拾九錢三厘に當るのであります。(婦人の友)

群馬支部員各位に告ぐ

本會群馬支部員にして、會費未納の向は、支部委員迄、至急納金せられたし

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

滿洲に於ける婦人救濟

廓清會評議員
救世軍大佐補　山室軍平

△大連婦人ホーム

滿洲に於ける救世軍の救濟事業としては、大連に婦人ホームを設けてゐる。之は我廓清會の益富政助君と容易ならぬ關係がある。益富君は日露戰爭に就て基督教青年會から軍隊慰勞の爲めに渡滿して居つたのであるが、干戈漸く收まつて澤山な婦人が誘拐せられて來ては淺ましい業を強いられ、悲慘な境遇に沈淪しつゝあるのを見て、同情の念抑へ難く、時の陸軍滿洲倉庫長、現第一師團經理部長日匹主計監を始め有志の後援を得て、これ等婦人の救濟を始めた。最初七人迄は東京の救世軍ホームへ之を送つておつたが、何しろ遠隔の土地ではあるし、金がかゝつて不得策といふ處から一家を借りて滿洲婦人救濟會と號し、三十九年二月から十月迄六十餘人を救つた。

これは實に世界のレコードを破つたものである。自分が明治三十三年に――結婚後間もなくであつた――自分の家に始めて婦人ホームを置いた時も人は奇異の感を以て之を見た。外國では斯ういふ事業は常に獨身の女子によつて營まれてゐる。夫婦者とはいへ男が之に加はつたのは珍らしい事であつたのに、益富君に至つては當時獨身者で、而も一點非難も誤解も受くる事なしに立派に經營したのは全く世界の記錄を破つた者で、推賛の價が充分ある。氏が廓清會の常務理事として働かるゝ事は、實に其人を得たといはなければならぬ。

其後此婦人救濟會は青年會の事業として營まるべきでないから、三十九年の暮に救世軍に引繼いで大連婦人ホームと改稱し、着々其働を進めた。やはり廓清會の理事をしてゐる大校山田彌十郎君が久しく此ホームを受持つて目覺しい成績をあげた。從來の處では狹隘に堪えないので、同地の有志及救世軍の本營とで八千圓ばかりの金を出し同市飛驒町に新築移轉した。地所は其筋から無代で貸與せられたのであつて、民政署とホームとの關係は極めて密接で、船が埠頭に着いて上陸する人々の中に怪しいと認むる者があると、誘拐者の手から取あげて救世軍の方に引渡すといふ樣な有樣になつてゐる。

其後山田大校は歸京し、一昨年の暮から植村大尉夫妻が行つて大に活動してゐる。事業の經過を示せば

一、始めより收容したる人員數　六八〇
一、內地に還り或は親元に渡したる者　二二三
一、職業に就かしめたるもの　三九二
一、自ら職を求めて去りし者　五
一、入院したる者及死亡者　八
一、不結果の者　三八
一、現在收容者數　一四

隨分大きな事業といはねばならぬ。

△最近に於ける救濟の實例

自分が今次の滿洲を巡回したのは四月末から五月の始めにかけてゞあつたが、

婦人ホームに行つて見聞した悲慘な實例の、二つ三つを擧げて見やう。

長崎生れの十七だといふ一人の娘は、一年前に人に伴れられて渡連し、女中奉公をしてゐた。すると其伴て來た男が奉公先に來ては毎月給料を取つて了つて本人には一文もやらない。主人の方でも愛憎を盡かして暇を出た。それで仕方がないから其男の家へ歸て來て半歳程居つた。男は女が役に立たぬといふ處から麪麭を一片づゝしか與へないので、身體は日一日と衰弱する。それにも拘らず戸籍の謄本など取寄せて頻りに酌婦に賣り飛ばす準備をしてゐた。其虐待が近所の人の眼にも着きて民政署へ投書した人があつた。そこで取調べの結果右の始末が判明し、同人を引あげてホームへ渡した。既う三四ケ月もゐるが營養不良で頭も少し惡くなつて、容易に奉公にも出せぬとの事である。

愛媛縣の者で年は二十七だといふ一人は三年前から渡滿して藝妓をして居つた。それが去年五月某所に出てゐる二十五才になる一青年と關係してゐたが、或日其男の宿舍に尋ねて行つて、ふざけてゐる處を人に見つかつて、それを新聞へ出した。處が其青年は折角志を立てゝ出て來たのを、自らの不品行からとは云へ、新聞に出てしまつては最早人に合はする顏もない。前途の希望も絶えたといふので、其新聞を携へて金州の大和尚山に上つて、新聞の上に座つてピストル往生を遂げた。それから後滿一年近くなるが、藝妓は朝な夕なに其男の事が氣にかゝつてならず、全く自分が殺したも同樣であるといふ良心の呵責に堪えないで、自分が行つた數日前ホームへ飛び込んで來て、ホームから廢業の手續をしたが、以後は誓つて眞面目な人間になるといふ覺悟で、朝から晩迄せつ〳〵と裁縫を營んでゐる。

愛知縣の者で二十五歳になるのが、さる知人から朝鮮へ行かんかと誘はれて、來たのが去年の末で、當時は男も堅氣な商業を營つて居つたが、間もなく事業に失敗して、眞面目な商賣ではいかぬから料理屋をするから酌婦になつて呉れといふて聽かないので、安東縣へ逃げ出した。其當時男は伴れて來た路用から着せたもの迄百圓かゝつてゐると號してゐた。然るに女は逃げた安東縣でマラリヤに罹つて止むなく病院に這入つた爲め、又八十圓ばかりの借金が出來た。で病氣が快方に赴くとすぐ是非なく橋頭に百八十圓の前借で酌婦に住込んで、百圓を始めの男に返し八十圓を病院に返した。それからいくらも經たない中に安奉線の工事が終つたものだから、橋頭も振はなくなつて樓主と共に長春へ移つた。併し何分此女はあまり顏が美しい方でないから賣れが惡いといふので大連の方に轉賣せられる事になつて、人をつけて大連に送られた。處が大連に送つて行つた其男が、賭博をやつて大分負けて、負けた自分の負債をすつかり女に負はし、三百九十圓といふ前借金で松の家といふ女郎屋へ賣つた。間もなく先の長春の樓主が更に一人の藝妓を同じく松の家に千圓で轉賣する約束が出來て、男をつけて大連に送つた。松の家の主人は現金で七百圓と、あとの三百圓のかはりだといふて前の婦人を逆戻しに男の手に渡した。處が其男がまた其金で賭博を打て七百圓の中を六百圓だけなくしてしまつた。其報道が長春に傳つたものだから樓主自ら出連し、其三百圓のかたに渡された先の女をなるべく好い値にもう一度大連に賣つて歸らうと思つて値踏みをした。松公園では三百五十圓で買はうといふ、小崗子の方では支那人を對手の醜業を營めば三百六十圓で賣れるといふ。十圓でも高い方がいゝから小崗子に行けといふと、女が支那人は厭だといつて聽き入れないから、其麼我儘をいふなら長春へ連れて歸らうけれども、其代り路用も嵩むから四百圓の前借といふ事にして根限り虐待する、外の者に菜をたべさする時にお前には鹽ばかり嘗めさするぞといふ。仕方がないから女は小崗子に行くといふて、救世軍に逃げて來て救を求めた。救世軍から民政署へかけあつて取調べて見ると、此女は既に松の家との手は切れて居るにも拘らず長春の樓主に對しては新しい關係はちつとも成立つてゐない。政府の帳簿の上では誰に何等の束縛を受くる身でもないといふ事實を發見した。そこで婦人ホームから轉居届を出して廢業届は要らずに濟んだ。これ等は人間を全く物品同樣に扱つてゐる人身賣買の著しい例である。

△孤兒貧兒の救濟

一昨年の暮、大連に行つた時に、漸々町が落ち着くと共に、そろ〳〵孤兒貧兒等の救濟を要するもののあるを認めた。で幸ひホームの家が廣いから其一部を用ゐて育兒事業を始める方針を立てゝ、昨年の一月から之が實行を見るに至つた。事

業の成績を擧ぐれば如左

一、最初からの收容數　四一
一、父母及知人に返した者　二一
一、內地へ還した者　八
一、現在　一二

之は少し其以前の事であるが、大連在留の宣敎師ウイン氏の戶口に、まだ生れて間もない女の捨見をした者があつた。拾ひ上げて色々相談したが外に致方がないからホームに引取つた。何分苗字も名も分らぬので何とかつけなくてはならぬといふ事になつた。世間には田の畔に捨てゝあつた子供だといふので、田畑捨藏といふ名を付けた話も聞いた事があるが、之は成人の後本人の自重心を害する事甚しいものと思ふ。當時の受持士官は考へた末、其子に神野愛子といふ名をつけた。クリスチャンの方から云へば之位好い名はない。コンデンスミルクで育てたが案外よく育つて、今は沙河口の或洋服店へ養女にやつた。

妻を亡くした一人の大工があつて、子供があつては仕事に出られないからホームに預ける事になつた。食料丈は仕送りをするといふ約束だつたけれども、仕事の不景氣もあつたかは知らないが、兎に角不拂勝になつて自然と足も遠つておつた。子供が來たのは去年で七歲になる男であつたから、今年は學齡に達し四月から通學せしめてゐる。福々しく肥つて大變好い子になつてゐるが、或日の事、大工が道具箱を擔いで町を通つてゐると、一人の學校歸りの鞄をつるした子供が蹶いて道に倒れたのを見て、何處のお坊ちやんか、可愛想にと思つて馳け寄つて抱き起して見ると、何ぞ計らんそれが自分の子であつた。見違える程丈夫に甲斐〴〵しい通學の姿を見て、今更自分の養育費の不拂だつたのを悔ひ、それ以來といふものはかかさず食料を送つて、折々子供の顏を見に來るのを何より樂しみにしてゐるといふ事である。

茲に十四歲と十歲とになる二人の娘がある。名古屋の生れであるが、或時一人の警官が巡回中此姉妹の者が他所の塵箱をあさつてゐた。そして芋の切れ端等を見付けては食つてゐる其樣子が怪しいので、調べて見ると、これは藝妓屋へ養女にやられ、それから又他家に段々轉賣せられ、本年の三月大連に渡つた。やはり藝妓にする筈で三味線や踊を敎へても覺えが惡くていかぬといふので、火箸で叩いたり、或は夜雨の中に投げ出したりして、たしなめた事もあつたが、思はしくないので、遂に飯を食はさぬ事とした。幾日か續いて碌々飯を食はさぬものだから、空腹に堪えかねて塵箱をつゝいて漁つてゐた事が分つたから、警察で之を取上げて救世軍へ渡された。ホームへ來た時に阿父さんはと尋ねたら、死んで了つたと答へ、阿母さんはといふたら、四人の中の何れかと反問した。之は次から次へ轉賣せられ、其都度其家の主婦を母と呼ばされてゐるから、何の母の事かと聞いたのであつた。誠に悲惨な事である。

△女中の滿洲輸出

今度計劃を立てゝ來た女中の滿洲輸出に就ては、別項雜誌の雜誌欄彙報中に詳記してあるから、茲には之を省略するが誘拐せられて向ふへ行つた者、或は墮落して堅氣の奉公をさすのが重なるホームの事業であつたが、何しろ新殖民地の常として男子の數遙に婦人に超過してゐて、殊に滿洲に於ける女中の拂底は著しく、一寸した家では皆止むを得ず女中がはりに支那人のボーイを用ひてゐる有樣である。それと同時に九州及中國の一部には兎角娘を外へ出して醜業を營ましむる風があつていけないから、之を未然に救ひ、消極的に良くない者の手から婦人を救ふと共に、積極的に善良なる職業を紹介し聊か新殖民地の經營に貢したいといふのが目的で始る事とした。更に進んで行く〳〵は天草島原等娘に身賣りをさするのを少しも恥と思つてゐない處へ押し出して行つてさういふ思想を打破する樣に盡す時も、是非來らせたいものと希望してゐる。

△小隊傳道と勞働寄宿舍

滿洲には大連に小隊を設けて傳道に從事してゐる事、及び小い勞働寄宿舍を設けて靑年男子の爲め働いてゐる事に就ては、今之を述てゐる暇がないから、之を略する。（談）

吉原の現狀

嘯月生

現今の吉原では妓樓の數が百五十五軒ある、これを各所に分けて見ると、俚俗伏見町の部に十七軒、江戸町貳丁目に三十軒、江戸町壹丁目に貳拾四軒、揚屋町に貳十四軒、角町に貳十八軒、京町貳丁目に十八軒、京町壹丁目に十四軒で、娼妓の數が合計で貳千貳百〇參人である。で、仲の町の引手茶屋といふものが四十六軒ある。けれど妓樓でも引手茶屋でもいづれも去年の大火後かの先月の本普請出來といふまでには、將來見込がないと悲觀して商賣換をしたもあらうし、本普請が思ふやうに出來ないので止むなく廢業したものも幾分はあらうと思はれる。

廓内の藝妓でも盛んな時分には百五十人といふ數に上つた事もあつたが、今では仲の町が七十三人、これに横丁拍子や妓樓の内藝者といふを加へても百人は覺束ない。幇間の數も現在は孝作、延孝を頭にして總勢すぐつて十四人。そこで現在娼妓の二千二百〇三人といふに對する年齢別をして見ると左表の如くになる。

年齢別	江戸貳丁	江戸壹丁	揚屋町	角町	京町貳	京町壹	計
十九歳	四	六	四	七	二	—	二三
二十歳	一二三	六一	八二	七七	四八	三〇	四二〇
廿一歳	一三六	一一〇	一〇四	九一	九六	五三	[illegible]
廿二歳	一一三	九六	七六	七九	九五	三九	四七一
廿三歳	七六	六三	四六	六三	四四	三五	三六九
廿四歳	五三	五三	四四	四五	四六	一四	二五五
廿五歳	三八	三三	二九	八	二六	六	一四八
廿六歳	二	一四	一	六	三	一	二七
廿七歳	—	一	—	—	二	—	三
廿八歳	—	—	—	一	—	—	一
計	五四八	四〇六	三七八	三七四	三四〇	一五七	二二〇三

もとより彼等の年齢に付ては十分正確なといふことはいはれないかも知れないが大體に於て大した相違もなからう。これに付て一瞥すると娼妓になる年齢は二十一歳といふところが多い、次には二十二歳から二十歳、二十三、二十四、二十五と次第して、十九歳といふのは二十三人、二十七歳では三人、二十八歳では一人を見るに過ぎない。それで今度はこれを出生地の府縣別にして見やう。

府縣別	江戸貳丁	江戸壹丁	揚屋町	角町	京町貳	京町壹	計
東京	六五	六二	八四	八二	九二	三九	四四四
新潟	一八〇	四九	四五	三七	七九	四九	三五七
山形	三六	[illegible]	三九	三三	九	五〇	一六八
群馬	六	四	九	八	四	—	二七
岐阜	六四	一四	三九	三九	五〇	七	一八七
愛知	三一	[illegible]	四	六三	二五	一	一八五
三重	三五	[illegible]	三三	八	二	—	一〇八
福島	二九	三六	三九	二二	一〇	—	一〇七
茨城	九一	[illegible]	三五	二七	九	七	一七四
鳥取	—	—	[illegible]	—	—	—	二
千葉	八	一	[illegible]	五	二	—	一九
和歌山	一	一	—	—	—	—	二
栃木	七	二	二	一	六	一	一九
神奈川	一	—	一	二	五	二	三
宮城	二	八	二	一〇	三	—	二五
埼玉	九	二	—	一一	一	—	二三
靜岡	一	一〇	一	二	二	—	一六
福井	—	—	二	一	—	—	二
廣島	—	一	—	—	—	—	一
長野	—	二	—	二	—	—	四
京都	—	二	—	—	二	—	四
大阪	—	—	—	—	一	一	二
富山	—	二	—	—	—	—	三
滋賀	—	一	—	—	一	—	
香川	—	—	—	五	—	—	五
佐賀	—	—	—	一	—	—	一
[illegible]	—	—	—	一	—	—	一
高知	—	—	—	—	一	—	一
兵庫	—	—	—	—	一	—	一
不詳	五	—	—	—	—	—	五
計	五四八	四〇六	三七八	三七四	三四〇	一五七	二二〇三

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

かうして見ると尤も多いのが、新潟、次が東京、次ぎが岐阜、次が愛知、山形茨城、三重、福島、群馬、宮城、埼玉、千葉、栃木、靜岡、神奈川、香川、長野京都、富山と次第して大阪、滋賀、和歌山、福井の各貳名から、廣島、佐賀、高知、兵庫の各壹名といふ順になる。然しこの内、第二位に在る東京は純粋の東京種か奈何かは疑問である、本籍を東京に移して居るものも澤山あらうし、府下の出生をも含んで居るのは無論であるが、兎に角、新潟、岐阜、愛知、茨城、三重、福島は際立つて多い。これらは其府縣の社會狀態や、生活の狀態を研究する一つの材料ではあるまいか。尤も大阪、京都といふやうな土地から出たものの比較的少ないのはそれらは、其地方の遊廓からの需要が多いからでもあらう、また大阪以西の方面の少いのは東京との交通の遠隔で、東京としては東北方面に求めた方が便宜であるがためかも知れぬそれにやはり大阪京都方面の需用が、東京まで送出す餘裕を與へぬ關係もあらう（新小説）

投書

私娼の檢黴と兩署

會員　中里正一郎

日本一のいや世界一の大遊廓吉原のすぐ隣り、淺草の大魔窟を大に取締る事となつた事は前號の本紙にも出てゐたが、更に今回は彼等の健康診斷を行ふといふ報道が卅一日の紙上に傳はつたので、一日休暇を利用して兩署を訪ふてみた。

△馬道署

先づ馬道署を訪ふて、自分は廓清會の一會員なる旨を告げて、廓清會運動の參考資料として大體の方針を聞きたいといふと、極めて親切に『確に檢査は行るがそれは今日明日といふ譯ではない、何れ警視廳の方から内命がある筈である、檢査は無論充分嚴重にやる。其方法等はまだ確定しない。十日頃には判然するだらうから其時に再び出署せらるゝか、或は電話を以て紹介せられたい。さうしたら詳細にお話しする事が出來やう云云』との事で、廓清會の會員と聞いて、大に贊同を表し、自分達も出來得る限り矯風に盡すから貴下等廓清會員も大に活動せられむ事を望むといひ、象潟署に赴く道順等丁寧に教へて呉れた。

△象潟署

馬道署の懇切なのに引換へて、象潟署は不親切を極めた。自分が廓清會の會員であるといふ事を告げたに對しても、『廓清會なんて、それは何の事だ』といつたやうな有樣で、廓清會の綱領を自分が述べれば、それには頓着なく、『醜業婦の取締？それは元より充分やつてゐるよ檢黴法？其麽ものは我々署員でさへ知らないのだから、何かの間違ひだらう。假令やるとしても何日か知らぬ、其方法も一向分らぬよ』といふ挨拶である。自分がまだ嘴の黄いといふ處から、サアベルの威光のみを知つてゐるやうな尊大な態度、自分の眼には寧ろ滑稽であつた。

自分は歸り路に熟々兩署の言語行動を比較して、後署の樣な當局者の覺醒を促すのが急務であると思つた。そして矯風の前途が遼遠で覺めたる我等の責任の益々重大なのを感じた。殊に滑稽な事にはどうする積りか象潟署では自分の住所姓名を手帳に記入した。

四方よりの同志の聲

○茅ケ崎南湖院長谷川英太郎氏より

▲廓清拜見いたし小生も入會願請仕度候に付、序を以て會費送金可仕候間、六月分よりの雜誌御送附の程希上候。患者にて當院内田岸貞吉氏も入會志望に付、是非可然御取斗ひの程願上度候、尚ゆる〳〵拜見の上にて友人間に少しく遊說を試みて見たくとも存候へば若し以前發行分にて、見本用として頂かれ候はゞ、古き物にても宜しく候間御願申上度と存候、地方の教友に勸むる爲めに使用せん目的に候、本月號は小生の母教會なる京都教會員等の多くに御目に懸け候、本會の發展と勝利を邦家の爲め祈上候。

○和歌山縣新河町阿里彥次郎氏より

▲拜啓廓清會の益々進むと共に神を信ずる我等意味ありげなる遊廓の大火續々として起る、勝利の時は來りしならん、勝利は主のものなり。一層の戰ひを持續せられん事を祈る、就ては先生には如何、遊廓の娼妓のみならず、我が中流以上の家庭にも解放すべき弱者に候余は家庭に束縛せらるゝ今の日本婦人に深厚なる同情を禁じ得ざるものに候。

○名古屋市相生町加藤冬作氏より

▲拜啓、時下氣候不順に御座候折柄尊父何の御障りも無之廓清事業の爲に御盡瘁の御事と感謝致居候小生公用にて一昨日郷里に參り本朝徒然の餘り當名古屋市の新聞を購讀致候處別紙切拔の如き記事を發見仕候讀み終へて嘆息すること久し一日も早く廓清會本部より何か愛知縣知事名古屋市長其他の當局者に對し有力なる刺戟劑を與へられんこと誠に懇願に不堪候

○福岡市川端町菅彥三郎氏より

▲貴會益々御奮勇の段恭大賀候却說貴大人の御來遊を遙かに悅び貴會の意旨に贊成し吾々も遠くより此意を發揚しつゝあるも世人が紙よりも薄き人情にては恥も何も考へざる世の我等に同情する者なく偶々貴會の東京に於て運動の趣を知り當地にも大々的運動を爲さんとす依て貴會贊成せられ方法及結果御報被下度祈入つて奉願候左に小生意見申候。當地の遊廓及藝妓券番なるものは何れも非常に人身賣買の方法を明にし抱主は家外に出づる時は綱を付けたると同樣一人の隨從者ありて自由を束縛し見る目も氣の毒に感じ居り其邊は已に貴會の御熟知の處と存居候小生は義俠を以て此等の淵に墮るゝ者を助けたくと存居候會則至急願上候又支部の名義を以て事業發展の策を計られんことを望み申候。

○宇都宮松原天琴氏より

御送與の御會の趣意書は各同志會に配布し疾に勸誘致居候も未だ眼に入りたる結果は得られず候へ共小生は決して其位の事に根氣負けをする男では無之會は熱心に努め居申候世には禁酒や禁煙の運動ある以上は女郎買禁止の運動も必要なるべくと存候あゝ女郎買禁止運動何と奇拔ではないか吾等は此の爲めに大に奮鬪せねばならぬ義務あるを感じ居候。何と云ふても人間は結局人間にて候他の獸類や動物とは異りたるものなれば廢娼論は必しも机上の空論にあらず實行し得べき問題なり世人は公娼廢止に對しては何等の反對の理由を有する譯にあらず動もすれば「社會が不完全なるよりして世には斯かる遊廓にでも行つて娼妓でも弄ばねばその肉慾を充す事の出來ない哀れな青年や勞働者がある此の意味からして廢娼論としては結構だが考物だなどゝ老功振つた事を云ふ時代後れの先生もなかには有之候。吾等青年獨身者の上を思ふ御好意は有難いが甚だ迷惑にて候、斯かる時代後れの存娼論者の誤見を感服して有難がつて居る如きそれ程までに品性下劣な獸的の青年や獨身者は之あるまじく候要するにそれ等の存娼論者は人間の肉體のみ見て靈性を認むる能はず所謂動物視したる結果かと存候而して或論者の說く如く現時代の大勢は決して公娼の存在を要求して居るのでなく又それ程までに現時の青年が墮落し居るものとも思はれず候唯斯る醜惡なる制度が現存し居るが故に却て眞面目なる青年が知らず識らずの間に墮落する事なきにしもあらず候。

小說

小說

闇

雪子

執拗い無頼漢の狼藉から脱れて、それにしても此の有難き救ひ主は、どんな人でありましたらう。聞けば停車場から來る私等二人の様子が怪しいと思つて、後から跟けて來ると前の始末に、危い處を助けたとの事、もう大丈夫伯母を尋ねてやるから安心しろとは申しましたが、之も亦猫撫聲で飴を喰はせる者ではないかと、大通を照す電燈の光輝に男の風體を見ますと、二十七八の上品な男で、口髭美しい立派な紳士でした。そして俥を二臺走らせて、共々七軒町の伯母の家に着きました頃は、夜も大分更けて居ました。

深夜意外の珍客を得て驚いた伯母は、更らに私の今迄の災難に驚き、厚く其の人に禮を申して名前まで問ひましたけれども、たゞ通り懸りの者とばかりて、折角引止めるのを拒つて、紳士は其儘何處へか行つて了ひました。流轉は世の慣ひ、躓く石も縁の端、分けて此の大難を救つて下さつた人、呆氣なくも其儘行つて了はれましたが、後に不思議な處で再び邂逅ふ日があつたのです。然しそれは後の事、其時怎うして分りませう。

三

五六年振りで伯母に會つた私は、恰度吹雪の冬から脱れて、暖い春に會つたやうな嬉しさを覺えました。脆くも流れる涙を抑へながら、母が亡くなつてから以來の、やるせも無い幾年月の艱難苦勞を私は肉身の伯母の前に物語りました。

『それやア雪さんの云ふことも一理あるけれども、何處に難の無い良縁を、いくら繼母の計略から來た事だからつて、無下に斷るのは宜しくない。雪ちやんだつてもう妙齢ぢやないか。早く嫁いた方が一生の爲めだよ。家を逃げ出した罪は私が詫びて上るから、穩しく家へ歸るやうにしなさいよ。』

と、伯母の言葉は思つたよりは同情がなかつたのです。私は態うして遙々訪ねて來たのは、詫びて家へ歸る爲めではなかつた、悲しい私の心に同情の涙を注いで貰ひ度かつたのだ。繼母に對する何とも云へぬ口惜しさを、慰めて貰ひたく思つたものを、詫びてやるから歸れとは何と云ふことであらう。今になつて考へれば伯母の言葉も無理とは思ひませんが、片意知張つた私は、餘りに情ない言分だと甲斐もないやうに思つたのでした。

伯母がやつた手紙に、父から返事が來たのを見ますと、『親の命に背くばかりか無斷で家を出奔すやうな不所存者は、親でない。娘でない、今日限り勘當するから、心から其非を後悔して、相當な傳手を頼んで謝罪しない限り、寄附けないからと然う思へ。』と云ふ意味が認めてありました。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私の惡いのは云ふまでもありませんが、さりとては餘りに無慈悲な言葉ではあるまいか、之れも彼の繼母の指金だと、何處までも思ひ詰めた私は、屢々伯母が諭すのも聽き容れないで、私だつて人一人だ、例令土を嚙つても、憎々しい繼母と無慈悲な父の前に頭を下げて、怎うして家へ歸るものか、何うして送つても一生だと、自暴半分に私は決心しました。

何處までも冷かな實家からの返事と、飽迄我を張る私との間に立つて、伯母も終ひには諦らめて、結局仕事の手傳などをして、私は伯母の家に止ることになりました。

斷つて置きますが、伯母の家と云ふのは、料理屋をして居ましたので、出入の客は皆飲めよ歌への賑やかさに、一種浮薄の空氣が漂つて居て、座敷で客と藝者が戯れ會ふ卑猥な言葉や、愼しみのない女中の戯言などを耳にする内、若々しい私の娘氣は何時となくそれに染つて行きました。今までは舊式の家庭に、變化の無い生活を送つて居た身が、此の浮々した何の苦勞も無さゝうな人達の有樣を見ると、羨しいやうな心さへ起きたのでした。殊に自暴半分になつて、寧そ捨鉢になつて了つた私は、怎う云ふ氣樂な生活が面白からうと思ひました。

境遇の變化と申しませうか。年齡の異ひと申しませうか。只管に亡き母を思つて泣いた頃の純な心は、何時となしに薄らいで、半年ばかりの間には、私は悉皆もう料理屋に起臥して居る種類の女に相應しい、氣輕な艶つぽい娘になつて居ました。

料理屋などを營んで居る者は、大抵そんなものでせうが、伯父は四十も越した年頃で居ながら、妻のあるにも拘らず、抱への女中に手を出たり、然うした不行跡は一度や二度ではなかつたのですが、現在私の伯母の夫であつて見れば、血こそ引かね、私は姪ではありませんか。それに何と云ふことでせう。怎うして私が居馴れるに伴れて、何時かあらぬ思ひを私に懸けたのです。

伯母や女中が外へ出た留守などに、云ふも恥しい事を言ひかけたのは、幾度あつたか知れなかつたのです。私は彼の名古屋へ着いた夜の事を思ひ出して、恐ろしさに慄えて居りました。

伯母には子供が無かつたものですから私を實の子のやうに可愛がつて居てくれたのですけれど、伯父の變な擧動が目に附き出してからは、さては早くも不倫の關係をしたのかと疑ひ出して、昨日までの愛情も、今日は嫉妬の的と變り、萬事につけて苛酷に追使ふやうになつたのです。

其頃よく來る客の中に、山田と云ふ若い男が御在ました。何處となく親切な物腰に、何時か話に身も入つて、私も恰度十八の娘盛り、初戀の焰は私の胸に燃え立ちました。

生れた家からは勘當され、不倫の伯父の慾望の眸には脅かされ、頼みと思ふ伯母にまであらぬ濡衣を被せられて、最早此の世に一人の味方もない私は、纖弱い娘心に、せめては一生伴添ふ男の陰を求めたかつたのです。

割り無い二人の仲が、遂には伯母の耳へも這入つて、手強い意見も聞かされました。さすがに若い私は、穴へも這入り

たい程恥しく思ひましたが、出來るだけ平氣でそんな事はないと言ひ張りましたが、併し怎うして皆に判つて見れば、靜止して居られません。
山田は或る學校に通つて居たのですが戀に捕はれた若い男女は、恐ろしくも逃亡を企圖るに至りました。實際前後の考へも何もなかつたのです。前申す通り棄子同様の私は、たゞ此の山田の愛に隠れて世を渡るより外に方法がないと思ひました。大膽にも私は、月末に集めて有つた伯母の財布をありたけ叩いて、男と共に其夜の中に名古屋を立つたのです。
墮落し切つた若い男女を乘せた汽車は軈て岐阜に着きました。一方伯母の訴へで警察の厄介にでもなると大變だと思ひましたから、直ぐに程近い山田の知己を便つて、やがて其近所に小さな家を構へました。
其中にはもう伯母の家から取つて來た金が、そろ／＼殘り少なくなつて來ました。云ふまでもなく怎うして夫婦になつた上は、怎のやうな難儀をしても、夫婦共稼ぎで送つて行く約束だつたのですが山田は別に職業も探さないで、毎日ブラブラ遊んで居るので、私は氣を揉んで時々は云つて見ましたけれども山田はどうにかなる、どうにかなると云つて遊んで居ます。私は漸く男の不實に氣が附いたのです。
、山田は矢張り私を喰物にしたのでありました。私は誤られたのです、欺かれたのです。殆んど命懸けも同様に、大金まで掴んで伯母の家を逃げ出したのは、矢張り無情な男の奸計であつたのです。

四

思ひ出すのも空恐ろしい、伯母の大金を攫つて、漸く二人落着いては見ましたものゝ、頼む男は遊んで居るばかり、座して喰へば大山も空しの譬の如く、ものゝ三月と絶たない間に、高利貸の手に懸るやうな狀態になつたのです。
怎那暮しをして居た日には、方の無くなるのは知れ切つた話、私は早く職業にありつくやうに、度々山田に注意しましたが、山田は平氣の平左で、
「なァに、結局仕方がなくなれば、お前の實家は名高い財産家だと云ふし、可愛い娘の事だもの、何とか無心して生活を附けるサ。」
との返事です。折角の縁談まで背いて自分から出奔した上、勘當まで受けた私が、怎うしてそんな無心などが云はれませうか。私は泣いて男の間違つた了簡を諫めました。
「だつてお前、夫婦二人が浮沈みの場合ぢやないか、僅か五十圓ばかりのことだから、お前が厭なら私が行つて懸合つて來る。」
と、言葉の調子まで賤しく云ふのです。私は唯泣くばかりでした。今更らそんな事を父が受附けるものでもないし、例令また聞き入れたにした處で、それ見た事かと云はれるのが口惜しい。どんな事をしても、私は此の難關を切拔けなくてはと決心しました。
私は終に若干かの身代で、酌婦に賣られる事になりました。
「今は夫婦の安危に關はる場合、私は喜んで酌婦に行きますから、どうか其の後で何かの職業に就いた上、妾が年期が明

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

けた時は、何處に便りの無い身の上ですから、怎うか一緒に末長く添ひ遂げて下さい。』

と、泣き崩れた私の背を撫でて、

『お前か然うまで決心したのだもの、俺も何かの職に就いて、只管お前の年が明くのを待たう。』

と、何時にない山田の優しい言葉、私は恁うしてマンマと山田の奸智に乘せられたのです。

酌婦に住込んでから、始めは山田も時々來て呉れましたが、何時か跡を暗まして、行衛も知れなくなりました。

初めて男の不實を知つた私は、堪らない口惜しさと、身も世もない悲哀に閉ぢられましたが、前借金に縛られた身は怎うする事も出來ず、棄て兼た身を賤しい仕事に托して、味氣ない日を送つて居ました。

或日の事、店に來た一人の客、インバネスを着た風業賤しくない三十男の横顔を、不圖見れば、まア何と云ふ不思議な事でせう。彼の名古屋へ始めて降りた夜に、無頼漢の手から救つてくれた其の人なんです。思はぬ處で恩人に再會した私は、我を忘れて悦びました。

其の人も不思議な邂逅を喜んで、

『彼の時の出來事と云ひ、今また恁那處で會ふと云ふのは、之も因縁の深いしるし、彼の時はたゞ伯母を尋ねるとばかりで、深い事情も聞かなかつたが、何か仔細のある事だらう。包まず聞かしてくれ給へ。』

との言葉に、寄邊も無い捨小舟の私は、その親切に甘えて、今までの事柄を、逐一打明けました。

『なる程そう云ふ譯だつたのか。恁麼憂き苦勞をするのも、要するに君の心得違ひからとは云ふものゝ、又娘心の無理もない處もある。殊に憎いのは山田とやら云ふ男の仕打だ。よし、乘り合せた舟だから、僕が怎うにかしてやらう。』

と、何處までも親切な男の言葉、私は夢ではないかと喜びました。

其翌日、男は私の親類の者だと云ふ名義で、主人に前借を返してくれ、私を身輕にしてくれました。私は唯嬉し涙に暮れるばかりで、禮の言葉も出ませんでした。それから男が申しますには、此上は一日も早く堅氣に復るやう、名古屋の伯母の處へ歸り難ければ、實家へ立歸る事にした方が、一生の爲めだ。もし具合が惡ければ、私が詫を入れてやるからと、何處までも傷はつてくれる恩人の情に、私はたぎる涙を、拭ふ術もありませんでした。

けれども何としても實家へ立歸る氣にはなれませんので、せめて重る御恩報じに、下女としてなりと一生奉公致したいと、私は男に懇願しました。男も遂に斷り兼ねて、共々横濱の男の家に往くことになつたのです。

男は山本と申しまして、某商館の番頭だと云つて居ました。まだ獨身でしたものですから、何時か二人の仲が近くなつて、終には內緣を結ぶ事になりました。

而して早くも五年の月日は經つたのでした。山本と同棲した間は、至つて單調な別に何の氣苦勞もなく送つて居ましたが、此の山本は、何故か外泊があり勝ちで、家へ泊るのは、一月の間に十日位しかなく、それも商用で忙しいからだと、私は

別に不思議にも思ひませんでしたが、或時出たつきり、一月も二月も歸らないのです。私も心配になりまして、怎うした事かと案じ暮して居りますと、或日參りました一通の手紙、見れば身は故あつて外國へ行く、暇乞もしないで別れるのは濟まないが、殘念ながらお前とは長の別れとなるだらう。何とかしてお前は外に身を立てるやうにとの事、私は狐につまゝれたやうな氣がして、急には本氣になれませんでしたが、何にせよ振り捨てられた今の場合、再び沖に漂ふ一葉舟となつたのでした。

暫らくして私は、或る祈禱師の妻となつて現れました。どうしてそんな者と一緒になつたか。それはお話申す必要も御坐ますまい、誰でもいゝ、私は夫として身を托する、男を持つより外に生きて行く方法の無い身の上だつたのです。

其の夫は、妙な祈願を神佛に込めると云つて、呪文を唱へて身上を占ひ、世の愚婦愚夫から應分の禮金を取る一種の詐欺師のやうなものでした。其の日に窮した私は、夫の職業が何であらうと、そんなことに頓着して居られなかつたので、野合同樣に夫婦になつたのですが、一年足らずでそれとも死別れて了ひました。

私は一時途方に暮れましたが、何時となく見覺えて居た祈禱を營んで、其日を送つて居たのです。すると、元々詐欺同樣の仕事ですから、遂に其筋から怪まれて、揚句の果ては東京の地方裁判所で、何と云ふ罪名か、懲役三ケ月の刑に處せられまして、一生拭ふことの出來ない汚點を戸籍の上に止めました。

獄から出た私は、所々と流浪の身になつて、あらゆる惡德のありたけを嘗め盡し、なれの果てを只今の通り遊女に身を沈めるに至つたのです。

何と云ふ變化多い私の半生で御在ませう。私が家を逃出しましてから恰度滿十年、聞けば故郷の父は、既に四五年前に世を儚くし、後は例の繼母の親族の者がいゝ加減にして了つて、一時は屈指の財産家であつた私の家も、今は見る影もなくなつたと云ふことです。

世を早くした母の墓も、後から逝つた父の墓にも、雜草の丈が延びて、荒れ果てるまゝに任せてあることでせう。惣領娘の私は、地の底を匍ふ蟲のやうに、暗い〳〵闇の路を、辿り盡して今は此の有樣、之と云ふのも畢竟は私の心得違ひからと、人知れず亡き父母に詫びの涙を絞つて居ります。

變轉極りない半生の、冷たい境遇に、叩き固められた私が、憂きふし多い川竹の流れに漂ふ夢枕の、遠い昔に通ふ度には、殆んど我事ではないやうな幼い頃の幸多かつた追憶に、經て來た生涯の空恐しく、絞られるやうな憂き涙に、冷たい薄團の襟を濡すことも屢々あります。

詰りもしない長物語を致しました。けれどもお聞き下さつた皆樣よ。私のやうな賤しい者でも、人一人には違ひありません。どうせ遊女などに身を墮す女の行末に、碌な事のある道理はありません。自分で滅ぼした私の一生は、怎うして生きながら葬られて行くので御在ます。

あゝ、生きながら葬らるゝ靈魂！　それは世界に私一人で御在ませうか？

之は小說にして小說にあらず、此の主人公のモデルは現に三重縣下の某遊廓に居る。

藁屑となりて送るな世の中を
寶玉の如送れ世の人
寶玉となるべき人は健腦丸常に用ゆる腦の良き人

島村醫學博士
有効證明

島村博士證明
健腦丸
TRADE MARK
KENNOGWAN

最良なる
腦病神經病新薬

主効

腦病、腦充血
腦膜炎、神經痛
腦貧血、眩暈
便秘、中風
耳鳴、健忘
搐搦、頭痛
卒中、逆上

▲健腦丸を常に少量づゝ持薬とせば逆上を引下げ、便通を心能くし、恐るべき腦充血を全治し、中風、卒中を未發に防ぎ記憶力を増進する特効あり

定價 一日分十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金二圓

本舗

大阪市心齋橋貳丁目
丹平商會本店

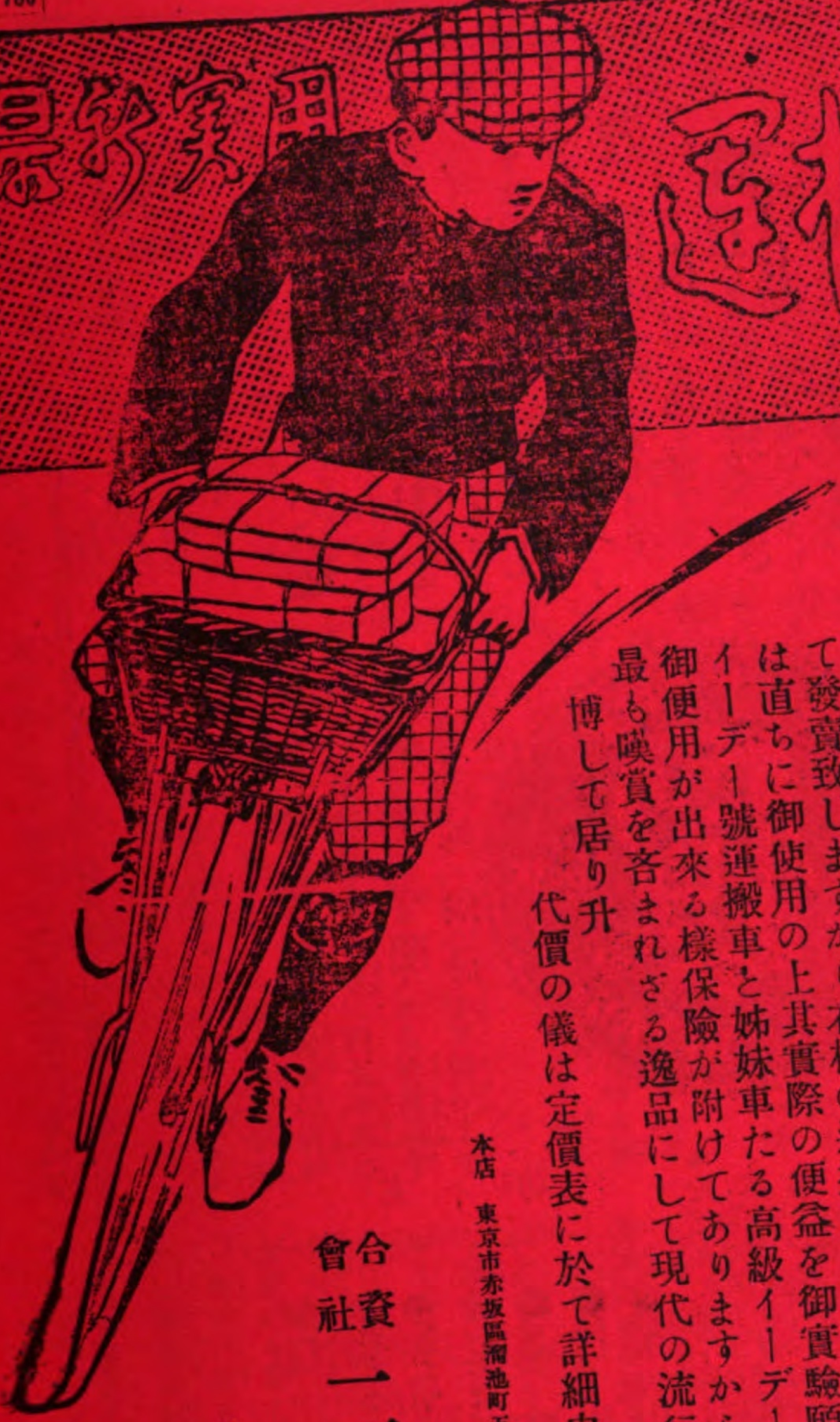
東京日本橋區箔屋町
丹平商會支店

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

運搬自轉車

用實新案号

實用新案第一八四二三号



見よ運搬界の大革新

（イーデー號自轉車の特色）

一秒萬金の現代に於ける理想的運搬自轉車はイーデー號運搬車に限ります。第一本車の前部には他の[illegible]達車に見ざる實用新案特許の装置あり貨物を積載するを以て……全體の重量は前後兩輪に平均に懸る故他の運搬車の如きタイヤ不平均の磨滅を生じません。運搬中遺失窃取の虞れが無く操縦が極めて便利なる上に特種の装置がありますから静止の儘顛倒の患なく貨物積卸に頗る便利であります。車體は最も堅牢にして輕快且つ安全にして而も廉價を以て發賣致しますから右様の運搬用自轉車を尋ねらるゝ實業家諸彦は直ちに御使用の上其實際の便益を御實驗願ひます。

イーデー號運搬車と姉妹車たる高級イーデー號は皆様が安心して御便用が出來る様保險が附けてありますから全國の愛輪家諸君の最も嘆賞を吝まれざる逸品にして現代の流行界に嘖々たる好評を博して居り升

代價の儀は定價表に於て詳細申上候

本店 東京市赤坂區溜池町五番地
電話新橋 一六一番
電話新橋長 一六二番
振替口座 一三九三三番
（日曜日休業）

合資會社 二葉屋本店

支店 東京市京橋區疊町七番地
電話 京橋 七三〇番
大阪市東區淀屋橋筋北濱南入
電話 長東 五〇四七番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

宗教世界

第二號

五月十五日發行一冊金拾錢

◉現代の要求（英文）◉將來の宗教（千葉博士）◉神道大意（山本熊次郎）◉佛説法滅盡經（今井革）◉オイケンの『宗教眞理』（千葉勇五郎）◉外數篇

橫濱市青木町三百三十九番地
教報社
（振替東京一一七〇一）

開拓者

六月號
一冊十二錢
一ケ月一圓二十錢

（夏期學校豫告）

◉今は何の時▲傳道學の要なきか……小松文學士
◉使徒保羅の宗教……中村長之助
◉ロオズヴエルト、アメリカニズムの意義……三浦文學士
◉希伯來書の背景及教訓……柏井園
◉宗教生活の興味……小崎弘道
◉青年の宗教……赤星仙太
◉實際の修養……長尾半平
◉ウイリアム、ジエームスの紀念▲世界の待てるもの▲晩近倫理思想の傾向▲所謂新しい女……觀潮生
◉バナヽ……さゝ葉生
◉大隈伯の宗教談……白雲生
◉東西宗教發達の並行……オツト博士
▲趣味ある生活（宮川經輝氏）▲人類の進歩（坪井正五郎博士）良師友を撰ぶの心得（後藤男爵）予は槍持なり（江原素六翁）▲涼風語（破天蓮老人）其他

發行所　東京市神田美土代町三丁目
日本基督教青年會同盟本部
（振替貯金東京二〇一九六番）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

六月廿日發行

六合雜誌

特價廿錢稅共

夏期特別號內容要目

▼口繪――ラスキンの墓
▼無意識の偉大……文學士 內ケ崎作三郎
▼基督教と他宗教……白石喜之助
▼新夫婦(ビヨルンソン)……文學士 魚住櫟村
▼夢のかをり(短歌)……野口せい子
▼オイケンの新著を評す……文學士 波多野精一
▼柊の咲く頃……吉田源次郎
▼ワイマーの第一印象……一高教授 三並良
▼運命(メーテルリンク)……文學士 內藤濯
▼ペエタア、ロオゼツガア……文學士 山岸光宣
▼夜の窓(短歌)……文學士 波岡茂
▼巴里短信……文學士 S. S. S.
▼約翰傳講義……三並良
▼感想、時評……同人

振替貯金口座東京一〇〇三

六合雜誌社

芝區三田四國町二の六

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

クラブ新聞

禁轉載

クラブあらひこ
クラブおしろい
クラブはみがき
クラブ美身クリーム
煉香油クラブ美髪用ポマード

本店新案

らしく主義

男は男らしく女は女らしくと云ふらしく主義は何事にも發揮して欲しいものである。男が女に、女が男になつては大變なやうに素人北粧と俳優の化粧とが混淆になつては愈以て大變である。

素人は素人らしく、俳優は俳優らしくして始めて本分の立つのであるから、素人でありながら俳優化粧を眞似るのは本分に反した所爲である。生命と品性とを沒却したものである。自己を侮蔑したものである。之加俳優化粧と素人化粧とは全然其目的を異にすると同時に、俳優化粧には素人化粧に用ふ可からざる有害なる材料を使つて居るのも隨分あるやうだ。それ故に素人が俳優の化粧法を眞似ては皮膚を害するのみか、却て識者の物笑ひを招くに至るのである。

日本の婦人が昔から柔和を尚ぶが如きも、畢竟此のらしく主義を實行せんとしたものである。而して婦人が婦人らしかるべき爲めに化粧と云ふことを怠ることが出來なくなるが、儲素人の婦人らしい化粧はと云へば、今日最も上中流社會に歡迎されつゝある、クラブ白粉の薄化粧が最も高尚優美にして、而も理想に近い完全な素人化粧である。

白粉に十種あり、然れども貴婦人令孃の使用に堪ゆるは、クラブ白粉のみ

美しい顔

顔の輪廓には好不好があつて、瓜實顔がよいと云ふ人と丸ポチャが好いと云ふ人とがあつて一定した規準がないが、美しい顔は肌理が細かで血色が鮮やかで光澤があつて、而して初初しく見へるを云ふ四要件を備へねばならぬ事には何人も異論はあるまいが、此四要件を完全に充實せしめるには、クラブ洗粉クラブ白粉クラブ齒磨の愛用が、何よりも大切である。

京都だより

▲京都は御承知の山紫水明天下に冠たる所にて候而して此の天下の風景美を集めたる地に生れたる京都の女は國粹的美を以て千有餘年の史上を飾り居候。

▲『蒲團着て寢たる姿や東山』てふ幽婉な風景の中に鴨川の清流を汲んで育つた京の女が濃麗なる姿を美人史上に輝したる事偶然ならずとこそ存せられ候。

▲かゝる優婉な美しき姿を有しながらその化粧法の垢ぬけのせざる點に於て折角の名珠も人形式とか靜止的美とか批評せられたるこそ殘念に存じ居候。

▲然るにクラブ白粉クラブ洗粉の流行して以來京美人は平和な鴨川の都に生れたらしき幽婉な一種いふべからざる床しさと生氣とを添へ來り候依て京美人は今後幾千年の美人史を飾ることゝ喜び居り申候。

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)
(明治四十五年六月十五日納本)

THE NANKOIN HOSPITAL

CHIGASAKI, SAGAMI, (Near Ōiso)

Under the Management of

Dr. K. TAKATA

Within a few minutes from the Chigasaki R. W. Station.

HEALTHIEST SITUATION FACING THE
SAGAMI BAY FINE SCENERY

Telephone: CHIGASAKI No. 2.

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤、

電本　八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電　チガサキ　二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤、

▲院長渡歐中の今處般歸朝す